

アリアンロッド リプレイ

ブライトナイト 4

# 二つの指輪

沢渡 祥子

1.
  1. [はじめに](#)
  2. [登場人物紹介](#)
    1. [シオン・シュタウク](#)
    2. [クリス](#)
    3. [ジール・田中](#)
    4. [レキ・ストランド](#)
    5. [フリーデ](#)
    6. [ライゼル・シューナー](#)
    7. [【オープニングフェイズ】](#)
  3. [SCENE 1 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（全員登場）](#)
  4. [SCENE 2 シーンプレイヤー：クリス](#)
  5. [SCENE 3 シーンプレイヤー：ジール・田中](#)
  6. [SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド](#)
  7. [SCENE 5 シーンプレイヤー：ライゼル・シューナー](#)
  8. [SCENE 6 シーンプレイヤー：フリーデ](#)
  9. [SCENE 7 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク](#)
    1. [【ミドルフェイズ】](#)
  10. [SCENE 1 シーンプレイヤー：クリス](#)
  11. [SCENE 2 シーンプレイヤー：ライゼル・シューナー](#)
  12. [SCENE 3 シーンプレイヤー：クリス（同行者：シオン）](#)
  13. [SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（同行者：ライゼル、フリーデ）](#)
  14. [SCENE 5 シーンプレイヤー：ジール・田中](#)
  15. [SCENE 6 シーンプレイヤー：クリス](#)
  16. [SCENE 7 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク](#)
  17. [SCENE 8 シーンプレイヤー：ジール・田中](#)
  18. [SCENE 9 シーンプレイヤー：フリーデ（同行者：レキ、ライゼル）](#)
    1. [■戦闘I VS 帝国動力甲冑飛行試作型×5体■](#)
  19. [SCENE 10 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク（同行者：ジール・田中）](#)
  20. [SCENE 11 シーンプレイヤー：クリス](#)
  21. [SCENE 12 シーンプレイヤー：なし（全員登場）](#)
  22. [SCENE 13 シーンプレイヤー：なし（クリス以外全員登場）](#)
    1. [■戦闘II VS 帝国一般兵（モブ）10体×5グループ■](#)

23. SCENE 14 シーンプレイヤー：クリス
  1. 【クライマックスフェイズ】
24. SCENE 1 シーンプレイヤー：なし（クリス以外全員登場）
  1. ■戦闘III VS “戦慄の”ゼロ■
25. SCENE 2 シオン（同行者：フリーデ、ライゼル）
  1. ■戦闘IV VS “灼熱の”アイン■
26. SCENE 3 マスターシーン
  1. 【エンディングフェイズ】
27. SCENE 1 マスターシーン
28. SCENE 2 シーンプレイヤー：ジール・田中
29. SCENE 3 シーンプレイヤー：クリス
30. SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド
31. SCENE 5 シーンプレイヤー：フリーデ
32. SCENE 5 シーンプレイヤー：ライゼル・シューナー
33. SCENE 6 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク
34. 【おまけ】



## はじめに

この本は、テーブルトークRPGのリプレイです。システムは「アルシャード」。

「テーブルトークRPG」及び「リプレイ」に関する説明は、ここでは省きます。今回は6人で遊んでおり、5人がそれぞれ自分の「キャラクター」を操作し、一人が物語の進行役（ゲームマスター、GM）を担っています。

「アルシャード」は、2002年にエンターブレインから出版された日本産のTRPGシステムです。ファンタジー世界での冒険を扱っており、2005年に改訂版「アルシャードff」が出版されています。

プレイヤーは「神々の力を受け継いだ英雄」となり、「奈落」という宇宙を蝕む負の勢力との戦いを繰り広げます。

TRPGの中でも比較的演出色が強いシステムで、プレイヤーには「状況に応じた的確な判断と対抗策」よりも、「その場に合う格好いい台詞とリアクション」が求められます。

GMの進め方も展開重視なところがあり、プレイヤーが何をやってもさらわれるヒロインはさらわれるし、つかまるシーンはつかまります。作戦内容にかかわらず突入するシーンでは突入しますし、成功も失敗も話の流れ優先です。

——そんな「お約束」をある意味楽しみながら自キャラの演出に励むのが、このシステムの特徴的なところかと。

そのため、これまでのTRPGリプレイとは少々毛色が違うものになっているかと思います。ご了承ください。

今回は公式キャンペーンシナリオ「ブライトナイト」を使用しています。

ファンタジー世界の英雄譚ですが、ロボットものの色あいが強く——はっきり言って、ガンダムから採用したとしか思えないネタが満載です。

では、今回のおはなしへ——。

## 登場人物紹介

### シオン・シュタウク



「クリスが僕を必要としている限り、僕は彼女を守るよ」

「僕は諦めない！」

男／人間／15歳 主人公・人型甲冑アームドギアの乗り手

肌／黄 髪／黒 瞳／黒 身長：163cm

シャードの形：曲玉型のイヤリング

【レベルとライフパス】

パンツァーリッター1/ファイター2→5

特徴：神の恩恵・美形（異性の反応がきわめてよい）

クエスト：運命への反逆

【プロフィール】

セッション開始時点ではまだクエスターになっていなかった島の少年。息子への関心の薄い発明家の父親と、修理したヴァルキリーと住んでいた。

父の発明した『アームドギア』に乗り込み、プリムローズと協力して帝国と戦う主人公。

### クリス



「シオン君、私はここよ！」

「あなた方のために私も戦います！ 今度は私が守ります！」

女／人間／16歳 ヒロイン・シャードの巫女

瞳／青 髪／金 肌／肌 身長：160cm

シャードの形：緑の八角形、ケインに付属

【レベルとライフパス】

オラクル1→3/ホワイトメイジ1/ブラックマジシャン1

特徴：美形（異性の反応がきわめてよい）

クエスト：失われた記憶（出自／喪失）

【プロフィール】

本キャンペーンのヒロイン。出自ライフパスはもちろん「神の恩寵（特徴：美人）」。記憶

を失っている。シャードの意思を形で受け取れる特殊な才能を持つ巫女。

## ジール・田中



「プリムローズの一員なら、まずそのおしゃべりはやめることだ」

「静かにしろ。我々は任務についているんだぞ」

男／人間／26歳 はたらくニンジャ

肌／イエロー 髪／ブラック 瞳／ブラウン 身長：174cm

シャードの形：黒い手裏剣

【レベルとライフパス】

エージェント1/スカウト1/ニンジャ1→3

特徴：質実剛健（耐久力+2）

クエスト：敵討ち

【プロフィール】

どんな時でも名刺を出して忘れず挨拶、ゼネラル・マテリアル社に勤務する特殊職員。本社の指令によりプリムローズの活動に協力している。スーツ姿にニンジャ頭巾が標準装備。口癖は「ニンジャですから！」

## レキ・ストランド



「十字架はお前らの墓に立ててやる！」

「未熟だ」

男／人間／33歳 復興を誓う王国の元騎士

肌／焦茶 髪／黒 肌／肌色 身長：185cm

シャードの形：虹色の八角柱のリング

【レベルとライフパス】

サムライ1→2/ファイター2→3/ハンター1

特徴：質実剛健（耐久力+2）

クエスト：王女の探求

【プロフィール】

十数年前に滅びたウェストリ王国に仕えていた騎士。祖国の復興のため、反乱組織プリムローズに身を投じる。行方不明の王女の行方を追っている。帝国将校“灼熱の”アインを仇と狙っている。

## フリーデ



「.....条件は理解しました。力及ぶ限り努力はいたしましょう」

「わたしがクリスを守るのは、彼女がミーティアの起動キーを持つ者だからではありません」

女性型／ヴァルキリー／年齢不明 戦うお手伝いさん

肌／白 髪／銀 瞳／水色 身長：164センチ

シャードの形：水色の涙滴型

【レベルとライフパス】

ヴァルキリー 2 / ハンター 2 / ホワイトメイジ 1

特徴：第六感（セッション中に1回、【知覚】判定の振り直し）

クエスト：マーカスへの恩返し

コネクション：マーカス・シュタウク（主人）

【プロフィール】

2年前に主人公の父親マーカスによって修理されたヴァルキリー。記憶が欠損しており、再稼働する前のことを覚えていない。マーカスが亡くなった今はシオンを主として仕えている。

## ライゼル・シューナー



「私にできるのは隙間を埋めること.....」

「生きているって素晴らしい」

男／人間／25歳 さすらいの行商人

肌／？ 髪／？ 瞳／？ 身長：160cm

シャードの形：黄色の六角柱、武器に付属

【レベルとライフパス】

エージェント 1 / ヴァグランツ 4

特徴：探索者

クエスト：契約の執行（出自：売買）

コネクション：パトリック・ウォン

【プロフィール】



新しく加わったGM社のエージェント。愛犬・クーちゃん（チワワ）と共に現れる。自分はないのに周囲の状況がどんどん好転していく、という特技(?)を持つ癒し系人物。お料理の腕は一級。

## 【オープニングフェイズ】

今回はいつもより1名多い、6名プレイヤーでの開始です。  
ジール・田中氏が次回から不参加の為、新キャラが加入することになりました。

## SCENE 1 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（全員登場）

GM : 前はブラングリュに乗って脱出しましたね？ それからせいぜい数日ぐらいだと思ってください。現在の活動拠点はブラングリュに移りました。ホワイトスネイクはGM社の所有物なので、乗っていたプリムローズ員は全員移動しています。

シオン : すごいよ、これがMEで動いているなんて！

フリーデ : いえマスター、新しいデバイスの起動にはメモリが足りません。（笑）

GM : 何の話をしているんですか。皆さんは今後の目的を決めるために、会議室に集まっています。

フリーデ : オープニングフェイズでレキさんっていったら作戦シーンなんですね。

GM : 皆さん揃ったところでハンスがモニターに現れます。作戦内容はまとまっているのか、書類みたいなのが渡されます。最初に作戦名が書いてあります。

田中 : また無茶な作戦がくるんだろうなあ。

シオン : 今回の作戦名は！

GM : 『帝国のウェストリ残留軍基地襲撃作戦』（笑）

ライゼル : 作戦名じゃねえじゃん！

田中 : いや、いつもそーなんよ。

GM : ハンスは言いますが、「帝国のウェストリ残留軍基地はゾンバルト将軍が在任しており、難攻不落の要塞として有名だ」——ゾンバルト将軍は、NPCの紹介にあります。（by『アルシャード』P168参照）

フリーデ : 『マサラ地区の徴収率が悪いな。みせしめに更地にしてしまえ！』ってセリフが書いてある人じゃありませんでしたっけ。

シオン : ロクデナシじゃないですか。

GM : （ルールブックの挿絵を見せつつ）そう、いかにもな悪役です。「——だが、現在ゾンバルト将軍が本部に呼び出され不在との情報が入った。基地を任されている軍師も同行しており、チャンスであることが判明した。相手が戦力を整えないうちにウェストリ基地を奪還して我が活動拠点にしたい」

ライゼル : .....よく考えなくても罠だよな？

田中 : そんなこと考えたらこのゲームできません！（笑）

GM : 「無傷で奪還できるとは思っていないが、幸いなことに我が方はウェストリの遺産の一部を手に行っている。この作戦が成功すれば帝国軍から初の領地奪還になる。これは非常に重要な意味を秘めている」

レキ : ほう。

シオン : つまりその初の偉業をゲリラが！

GM : 「今までの戦いで散っていった仲間のためにも、領土解放というきっかけを掴み帝国に反撃の狼煙を上げたい」

シオン : 「で、我々は何をすればよろしいんです？」

GM : 「その尖兵になってもらいたい。最も重要で過酷だが、君たちは我々の中でも特に突出した能力を持っている」

クリス : いつの間にかそんなところまで話が進んでいたのかー。

GM : 「それから、GM社から新たに1人エージェントが派遣されてくる」

ライゼル : .....はい？（←台所より、左手に豆腐&右手に包丁装備で顔を出すエージェント@お昼御飯作り中）

シオン : あ、用があったら呼ぶから、それまではおさんどんさんでいいよ。

田中 : エージェントというよりは新しい家政婦が登場。

GM : 「ジールとは知り合いのようだな。今回の作戦にも同行してもらおう。——作戦は以上だ。作戦日時は明朝決行してもらおう」

クリス : えええー！？ 早っ！

GM : 「この情報が入ったのがほんの数時間前なのだ」

シオン : なめんな。何かい、数時間前にあった情報を裏も取らないうちに、とりあえず時間がないから言ってこいコラってことか。(笑)

レキ : 他に作戦については？ ここから入るとか、ここをまず落とすとか、何が準備するものとか。

シオン : バックアップ体制とか、所要時間はこのくらいで終わらせないとヤバイとか。

GM : 「それは追って……」

田中 : 追ってって、明朝だから今ないと困るんだけど。(笑)

GM : 「まだ資料が完全に整っていないのだ。後でまた連絡がいく。各々翌朝に備えて待機してくれ。世界の命運は君たちにかかっている！」——と、プツツと消えます。

レキ : 「わかりました」と、気合いが入ります。

シオン : 今、士気が高いのはレキだけだね。

## SCENE 2 シーンプレイヤー：クリス

◇クリス（オラクル4／ホワイトメイジ1／ブラックマジシャン1）

16歳・人間・女

コネクション：アイゼン・キルシュ（関係：家族）

王家の指輪を持つ記憶喪失な姫君。目指すは正当派の宮崎ヒロイン。

クリス：寝不足だから、ちょっとやばいかも……。←プレイヤー睡眠時間が1時間

GM：会議が終わった後、どうします？

クリス：そうだなー、ヒロインらしくシオンのところに行く。

シオン：ここでヒロイン度がUPするかどうか！？

GM：どうぞ。会議が終わった後で、みんな部屋に戻っていくところです。

クリス：「シオンくん」って。

シオン：資料を見ながら歩いているところに、後ろから声がするんですね。

田中：あ、なんかガンダムでありそう。

シオン：「どうしたの、クリス？」

クリス：……………どうしよう。考えてなかった。（笑）

田中：考えていないのに移動したのか！

シオン：じゃ、「大きな声では言えないけど、クリス、いいの？ プリムローズが前に立っちゃって」

クリス：「うん……。正直言うと、自分が王位を継承したとか言われても全然ピンとこなくて。とりあえずみんなの意見を聞いて流されている感じなのかなー」

シオン：「クリスは、国を復興させたいとか思ってる？」

クリス：「よくわからないなあ。国のこともよく覚えていないし。記憶が戻って……そうすれば、本当に何がしたいかわかるようになると思うんだけど」

シオン：「それでいいと思う」

クリス：「頑張ろうね」、じゃ、って感じで。

GM：部屋に戻ると、ドアの下の隙間に手紙が差し込まれています。

クリス：ああ、やっとハンドアウトを思い出したよ。「何かしら、これ？」と、部屋に入って戸を閉めてから手紙を見ます。

GM：『突然の手紙で驚いたと思う。だが、戦闘が始まる前にどうしてもお前と2人で話をしたい。今晚0時、指定の場所まで来て欲しい。大切な話があるのだ——アイゼン・キルシュ』。君はその前に覚えがあります。兄であろう名前ですね。

クリス：おいおいおいおい！

GM：と、コンコンと音がします。

クリス：慌てて手紙を隠して、奥にこそっと入れて、「はい、どうぞ」と。

GM：目の前にソフィー・ウィルマーが立っています。

クリス：「ソフィーさん、どうしたの？」って感じで。よしこーい！ $\text{III}(\text{D}^{\circ}\text{II}^{\circ}\text{III})$ （笑）

GM：「すみません。あなた達にばかり苦労をかけて、私は何もできないで……」

田中：超ヒロイン力高いですね。

クリス：「でも、それができる人が私たちしかいないっていうんだったら……。それに、私にはシオン君がいるから頑張れます」

シオン：うわ。

GM：表情がぴくんと微妙に変わります。（笑）

クリス：もちろんそれは気づいていないフリですよ。……フリじゃなくって、気づいていませんよ。（笑）

GM：そうすると、手紙の封筒の部分を見つけて「あれ何ですか？」と。ちょっと見えたら

しい。

クリス : 「これは何でもないの。ちょっと……（しばらく考えてから）ポエムでも書こうかと思って」（笑）

田中 : ブーツ！ ポエムのヒロインってちょっと嫌だなー。

クリス : じゃ、「これは明日の会議のことで……ごめんなさい。部外者には見せられないの」（笑）

GM : 「すみません、余計なこと聞いちゃって。明日の作戦、無事に帰ってきてください。皆さんの無事を祈るしか私にはできないの」

クリス : 「ありがとうソフィーさん、きっと無事に帰ってくるわ。大丈夫、シオン君が護ってくれるから。見守っていてくださいね」と。表面上はちゃんと和やかに。

フリーデ : 中身もちゃんと和やかにね。中の人が和やかじゃないみたいだけど。

田中 : 中の人などいない！（笑）

GM : ソフィーは不安な表情のまま出ていきますが、あなたは今それどころではないはず。手紙を読んでしまったからには。

クリス : ——ああ、そうだよな。すっかりファイトに夢中になってしまっ。（笑）

GM : 『指定の場所』は、翌日作戦を行う場所との中間地点の山間です。

クリス : え。外かー！

GM : 抜け出さないとならないんです。ヒロインどうする？ 巻き込むか、それともサクリファイスか。方針を決めたところでシーンを切ります。

フリーデ : いやいやいや、何でサクリファイス！？ キャラ的にはサクリファイスでいいんだけど、中の人的には巻き込みたい。

田中 : だから中の人などいないー！（笑）

クリス : 巻き込みで、シオンのところに行きます。

シオン : うわ、俺か！ てっきりレキかと思った。

レキ : こっちに来るとむしろ止めちゃう。

フリーデ : シオンは前回『レキさんに言ったら通らない事かもしれないけど、僕が協力する』って言っていましたね。（笑）

シオン : 嘘っ、俺そんなこと言った！？ やべ、テキトーなこと言えないね。

クリス : あれですね、フラッシュバックでその場面が飛んできたわけですね。

GM : じゃ、クリスはシオンのところに向かったというところで、シーンを切らせていただきます。

## S N E N E 3 シーンプレイヤー：ジール・田中

◇ジール・田中（エージェント1／ニンジャ4／スカウト1）

26歳・人間・男

コネクション：ミカ・レスク（関係：同志）

ゼネラルマテリアル社から派遣されたニンジャなサラリーマン。

次回からはしばらくお休み（再登場未定）。

GM : 君が自室に戻っていると連絡が入ります。「ジールさん、ハンスさんがあなたに渡す資料が調ったそうなので、会議室に来てくださいとのことですよ」

田中 : 「わかった」と、そちらに向かいます。

GM : 君が会議室に入るとそこにいるのは、女性……というより女の子ですね。

モニターのハンスが言います。「ジール君、君の任務はウェストリ残留軍帝国基地への潜入だ。エージェントと忍びの力を最大限に発揮してもらいたい。今回の作戦は急なこともあり、曖昧な点も多く存在する。罠ということも考えられる。事前に行って確認してもらいたい。……そして、ここからが君にとって難しい任務になると思うのだが、彼女も同行してもらおう」

田中 : 「彼女は？」と、ちらっと見て聞くけれど。

GM : 「道中の案内役だ。彼女はウェストリ周辺で育ち今はプリムローズで活動してもらっている同士だ。今回の潜入路は彼女が発見したものだ。あの辺りの地理にも詳しいので、サポートのため同行してもらおう。力になると思うが、まだ年端もいかない子供だ。よろしく頼む」

田中 : ああ……。

GM : 彼女はそれを言い終わる前に「ハンスさん、なんてこと言うんですか！ 私は十分に一人前ですよ！」と嘯みついできますね。

田中 : おお、そういうキャラクターなんですね。

GM : ジールをきつと睨みつけて「あなたも足手まといにならないでね！」と。

田中 : 「名前は」

GM : 「ミカ・レスク。ミカって呼んで」

田中 : じゃ、ミカを見て、武器とか持っているんだよね。「その腰のものを使ったことはあるのか？」と。

GM : ちょっとためらいながら「と、当然じゃない！ 私はプリムローズの立派な一員よ！」

田中 : 「プリムローズの一員なら、まずそのおしゃべりはやめることだ」

クリス : いいねーいいねー。

GM : 顔を真っ赤にします。「あんたに言われたくない！」と、バンと出ていきます。

田中 : 出ていくの？ じゃ、「いつの間に我が社は保育園になったんだ……」と一言言って、ミカを追います。それでシーンを終わりにしましょう。

GM : ジールさんにクエスト、『ミカを守る』

シオン : エージェントなのに守る任務かよー。

田中 : ええ、しかもおてんば少女を。

GM : 今回はちょっとやんちゃ系。

シオン : やべ、本当にジール・ガールズだ。

フリーデ : 前は大人の女性でしたから、今回は低年齢ですね。……次回は上司とかがいいなあ。

シオン : エロゲーみたいだ……。

## SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド

◇レキ・ストランド（サムライ2／ファイター4／ハンター1）

33歳・人間・男

コネクション：ハンス・ウィルマー（関係：同志）

反乱組織プリムローズに身を置く戦士。10年前に滅んだウェストリ王国の元騎士。

- GM : 君は自室に戻っています。
- レキ : 書類を見ながら考えている。
- GM : 連絡が入ります。「レキさん、ハンスさんがお呼びなのでもう一度会議室に向かってください」
- レキ : 「わかった」と、行きましょう。
- GM : 会議室に着くと、ハンスがモニターに出ます。
- シオン : .....ハンス、そろそろ捕まるんじゃないの？
- GM : いいえ、捕まるのならもう片方の方かと。ハンスさんはどこまでいっても暗躍する人ですから。
- シオン : ということは、フソイーはまたそこでヒロイン度UP！
- GM : ハンスは言います。「出撃前に話しておきたい。実は、ウェストリ残留軍基地の留守を預かっている人物は“戦慄の”ゼロという男なのだ」君はその名前に覚えがあります。過去、君の親友を殺した人物です。復讐を誓っている人物でもありますね。
- レキ : 「奴が.....」って感じで。
- 田中 : うわーっ。なんかどんどん深い話になっていますよ。でもレキって5人目のPCでしょう？ でもなくてはならない人ですよ！
- レキ : サブストーリーです。シャアのギレン殺し（by『機動戦士ガンダム』）とか、そんなレベルの話。
- 田中 : その人イメージとしてはどんな感じなの？ えーと、ザビ家的な感じとか。
- GM : 今まで美形はいっぱい出てきましたけど、それとはほど遠いような感じですね。——ドズル？（by『機動戦士ガンダム』、ジオン公国軍中將ドズル・サビ）
- 田中 : あ、やっぱりそっち系か！ 『ビグザムが量産されたあかつきには.....！』
- GM : 巨大なグレートアックスを振り回し。
- レキ : むしろ銀英伝みたいな.....。
- フリーデ : オフレッサーかな。（by『銀河英雄伝説』装甲擲弾兵総監・オフレッサー上級大將）
- GM : 「事前に伝えておかなければならないと思ってな。熱くはならないでくれ。今の君はプリムローズになくなくてはならない人物だ」
- レキ : 「わかりました.....。努力します」
- GM : 「基地の襲撃が成功すれば、君の念願でもあるウェストリの再興の一步ともなろう。君に言うことは以上だ」——ちなみにクエストは、『作戦を成功させる』ね。

## SCENE 5 シーンプレイヤー：ライゼル・シューナー

◇ライゼル・シューナー（エージェント1／ヴァグランツ4）

25歳・人間・男

コネクション：パトリック・ウォン（関係：ビジネス）

ゼネラルマテリアル社職員。愛犬チワワのクーちゃんとともに、皆さんのお手伝いをいたします。

GM : 君はいつも通り、任務を終えてGM社に戻ってきます。そしてパトリック・ウォンに呼び出されます。

ライゼル : 「ライゼル・シューナー、ただいま参りました。今度の目的地はどこで、どのようなものを補給すればよろしいので？」

GM : パトリック・ウォンはいつもどおりやる気のなさそうな感じで腰掛けながら「今、ちょっとややこしい状況になってさあ。ジールは君も知っているだろう？ Wジールの一人だ」

田中 : Wジール、あったねえ。一人になったから、もうWじゃないけど。

ライゼル : 「そのジールさんに何かを届けるんですか？」

GM : 「そうなんだだよ。――キミをね」

ライゼル : 「そうなんですか。――卵ですか？」

GM : 「.....エージェントであるライゼル・シューナーを補給してもらうんだ」

ライゼル : 「なるほどー。.....私、何もできませんが.....」

GM : 「ジール君には戻ってもらわないとなくなくなってね。Wジールの片割れが作戦中に死んだってのもあるんだけどさ、帝国にプリムローズとの関係バレちゃいそうなんだわ。ジールにはそのための修復作業にジールに行ってもらわないと困るんだよねー」

ライゼル : 「なるほど、それはジールさんじゃないとダメですね」

GM : 「で、ジールの代役がないんだよ。君、隙間埋めるの得意じゃん。接着剤になってよ」

ライゼル : 「私にできるのは隙間を埋めること.....。も、もしかしてあのウワサを信じているんじゃない。私がいる部隊は何故か無事に帰って来るといふ」

GM : 「それから、今ちょっと難しいことになっててさ、うちの乗り物使えないんだよ。確か飛行免許あったよね？ あそこにある乗り物、年式は古いけど飛ぶから頑張る。地図は飛行機に貼ってあるからさ」と、ぼいっと旅路の荷物を渡されます。

ライゼル : 「ええっと.....」

GM : 「それから、当然ながらGM社は関与していないから」

ライゼル : 「私はただの放浪者として合流することになるんですね」

GM : 「そうそう、よく呑み込んでいるじゃない。ヨロシクな」

シオン : なんか、涙出てきた.....。（笑）

GM : 「君は長期任務についていることになっているからさ」

ライゼル : 「ああ、なるほど。それで僕の名前が下駄箱になかったんですね。わかりました」行く途中に勤務表をちらっと横目で見てみます。「僕の名前がない.....」

シオン : いや、ちゃんと書いてあるよ。『長期出張』って。

GM : 場所は全然関係ない、普通の場所です。

ライゼル : 「あ、すごい。もういないことになっている.....」

GM : 安心してください。近くにあるジール・田中も『長期滞在』になっています。

ライゼル : 行きます。永遠の旅路にGO。

GM : あなたは今にも壊れそうなポンコツ飛行機で旅立つことになりました。――というわ



けで、君にクエストを渡そう。『生き残る』（笑）

シオン : なんか聞いたことあるぞそれ！ どっかで聞いたことがあるぞー！（byリプレイ『2人の女王』参照）

クリス : それってつまり、クエストにしないとならないくらい大変？

## SCENE 6 シーンプレイヤー：フリーデ

◇フリーデ（ヴァルキリー4／ハンター2／ホワイトメイジ1）

ヴァルキリー・女性型・製造年不明

コネクション：レーネ（関係：同志）

記憶喪失ヴァルキリー。遺跡ミーティアの制御プログラムだが、OSはMEらしい。

GM : 君は飛空艇ブラングリユでレーネに付き添ってもらい、この船の最終調整のレクチャーを受けつつ共に作業をしています。

フリーデ : 2人で黙々と、必要最低限の会話だけで作業をしているのではないかと。

GM : そうですね、抑揚のない、非常に機械的な会話で。

シオン : ヴァルキリー同士って、USBかLANケーブルで繋いでデータを移動するだけ？（笑）

GM : それでもいいですけどね。

シオン : そんな受け口だと受け取れないですー。

フリーデ : 「レーネ、バージョンが新しすぎます」（笑）

レキ : 上位互換ができない！

GM : そんなことないです、安心してください。君もレーネも同じ時代に作られた同世代機なので、全く相違点はないです。

フリーデ : じゃ、なんでOSが違うんですか？（レーネのOSはWin2000（本当は違うけど））

レキ : シオンのお父さんが直した時に変わった？

田中 : お父さんが『いやもう、2000じゃなくてMeで！』って。

シオン : だんだんフリーデが愉快的なハコになってきているよ。

GM : 無事に調整も終わり、あとは翌日までの調整くらいでしょう。レーネが口を開いて言います。「とりあえず調整は終わりましたね。ですが出撃まで時間がありますので、少しよろしいですか」

フリーデ : 「はい」と、特に何も考えずに答えます。

GM : 「この現在の指揮者であるハンス・ウィルマーからデータがこの船に入りました。どうやら次の作戦基地のところにいる灼熱のアインという人物がクリスを狙っているという」どうやら灼熱のアインもいるらしいです。

田中 : うわーっ。

フリーデ : 「先程の会議では、そのような話は聞いておりませんでした.....？」

GM : 「たった今入った情報です」

フリーデ : 「では、他の方々にも同じ情報は入っているのですね」

GM : 「そういうことになります。ですが我々はミーティア用の制御バルキリーです。我々の信念はミーティアを守ることです」

フリーデ : 「はい」

GM : 「それは起動できる人間を守るということも含まれています。つまりクリスを守ることとも現在の使命であると思ってください」

フリーデ : 「.....はい」

GM : 「私はこのブラングリユから離れることはできません。まだこの船も完全ではないので、どちらかが残らなければなりません。なので、あなたにクリスを守ってもらいたいのです」

フリーデ : 「はい」

GM : 「例え何が起ころうとも彼女を最優先にしてください。たとえ作戦が失敗しようとも」

フリーデ : .....それには黙ってます。

クリス : 起動できる人間だけ。

GM : 前回参照。あなたの遺伝子関係がこの船の起動キーです。

田中 : 鍵っ子ヒロイン。

フリーデ : 「—レーネ、クリスの他にミーティアを起動できる人物が現れた場合、その人物も保護もわたしの役目ですか」

GM : 「現在は起動できる人物は第一継承権を持つクリス様だけです」

フリーデ : 「もしクリスが亡くなった場合、第二継承権を持つ人物を守ればいいのですか」

GM : 「その場合はそうなりますが、現時点では彼女が第一候補なので彼女の守護が最優先です。起動できる人物がわたし達のマスターです。人格は関係ありません」

フリーデ : しばらく答えませんが、「……条件は理解しました。力及ぶ限り努力はいたしますよう」と。

GM : 「よろしくお願いします。ではわたしはもう少しここに残ります。最終調整は終わりましたが、他の点がないかどうかチェックします。フリーデは作戦のための準備をしてください。クリス様をよろしくお願いします」彼女はあまりにも機械的なしゃべり方しかしません。

フリーデ : 「……わたしのメモリは、そこまで復旧していません……」とだけ答えて「失礼します」と退出します。

GM : 明らかに、今のあなたはレーネのところまで割り切ることが出来なくなっている自分がいますね。

フリーデ : 割り切るといふかね、クリス最優先という仮定を用いた場合の行動をトレースする時に、どうしても一部欠けが出ちゃうんです。……ってくらいでいいですか？

GM : そうですね。今までマスターはシオンだったし。完全に合致できない部分があると考えてください。

フリーデ : 例えば、シオンとクリスがお互いに殺し合ったらどうするの、とかねー。

GM : 少なくともレーネだったら思い切りシオンをぶっ殺しますね。

フリーデ : だからこそクリスが主人であること条件付けが気になったんですが……。 「本当に、かつてのわたしには、そのような条件づけがされていたのだろうか……」って胸中で呟く感じで。

GM : あなたは自分の中のメモリを調べたりしますか？

フリーデ : いえ、あれ以来していません。

シオン : 今回フリーデが、葛藤を持ったキャラに見える。

フリーデ : 元々キャラメイクした時にね、ここに葛藤を置くつもりでいたんですよ。

シオン : それが今まであんなに愉快的なことばかりだったんですね。

GM : クエストを渡します。『マスターを守る』誰がマスターなのかによりますよ。

ライゼル : ゲームマスターを守る。

GM : わーい、俺守ってくれー。

フリーデ : (やや棒読みで) ゲームマスターは頑張っているんだよー。みんな、責めちゃだめだよー。(笑)

## SCENE 7 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク

◇シオン・シュタウク（パンツァーリッター1／ファイター5）

15歳・人間・男

コネクション：ソフィー・ウィルマー（関係：同志）

本キャンペーンの主人公。父の遺作となったアームドギアに乗り込み、反帝国活動中。

GM : 君はいつも通り整備しています。

シオン : おかしいな、最近整備はおざなりで、レキさんから習った剣術しかやってないよー。  
(←現在パンツァリッター1Lv／ファイター5Lv)

GM : そんなことないよ、君のシーンはまず整備から入るんだ。整備が終わり、コクピットの中にいると今までの記憶が蘇ってきます。

シオン : マスターからその演出をされたら仕方ない。目をつぶって身をシートにゆだねているんですね。

GM : 中でもアームドギアを使っただけの戦闘のことなど、鮮明に思い出します。

シオン : 「水中専用は卑怯だよ……」(笑)

GM : 赤いバーサーカーとの戦い……。

シオン : あれって強かったんだっけ？

田中 : 強かったよ！(笑)

GM : 思い出するのは、忘れもしない赤い機体。あの時は偶然にも勝てたが……。

シオン : 「次はあの人に勝てるのだろうか？」

クリス : いい感じだ。少年の葛藤だね。

シオン : ちょっと頑張ってみよう。

GM : 自分がアームドギアを完全に使いこなしてない、というジレンマがあります。

シオン : 「僕じゃだめなのか……？」

GM : そんなことをしていますと、……(クリスに)登場していいですよ。

クリス : 安息の地を乱しに来ましたよー。「シオン君、いつもここにいるのね」

シオン : 「うん。整備、ちゃんとしないとね。父さんの遺してくれたものだから」

クリス : 「大切にしているんだね……」

シオン : (しばらく沈黙して)――ごめん、ちょっと待って。

田中 : な、なんすかなんすか？

シオン : 俺の中の神が『お前、嘘つくなよ(-.-)y~~』と。(笑)

田中 : だめ、だめだめっ。チャックから黒いモノが出てますよー！

シオン : ――OKOK、ちょっと戻そう。(自分に言い聞かせるように)これは父さんの作ってくれた、母さんの思い出の詰まった大事な機体、決定！よし！

クリス : 「……私にもお父さんとお母さん、いるのかな」って感じで話に入っていきます。「実はねシオン君。さっき部屋に行ったらこんなものが……」と言って手紙を見せます。

GM : 署名はアイゼン・キルシュとなっていますが、君はその名前を聞いてもピンときませんね。

シオン : じえーんじえんこない。

GM : けれど、彼女はそれを見て思い詰めた顔はしています。

クリス : 「そのアイゼン・キルシュっていう人……多分、ううん。きっと私のお兄さん。私、この人に会わなきゃいけない気がする。本当は一人で行こうと思ったんだけど、シオン君、前に、『何かやりたいことがあったら僕が協力するからまず相談して』ってしてくれたよね？」って。

シオン : そ、それはほぼ脅しじゃないかと。「よく僕に言ってくれたね。協力するよ、クリス

。行きたいんだね。このことはレキさんに内緒にしないとね。絶対に止められる。フリーデにはどうしようかな？」

クリス : 「フリーデさんは.....止めるかしら？」

フリーデ : ー (含みのある口調で) わたしにもわかる理由を、きちんとおっしゃっていただければ、お止めはしませんよ？ (笑)

クリス : 今のフリーデのセリフが頭に響くんですね。

田中 : これだから姑は一。

ライゼル : そういう時は決まっているじゃないですか。深夜のデートだって抜け出すんです。(笑)

シオン : 「今晚、この時間に間に合うように、格納庫で待ち合わせをして」

クリス : 「ありがとう。シオン君ならわかってくれると思った」

田中 : おお、いい感じでズルズルと進んでいきますね。

GM : そこでクリスにクエストを渡します。『アインと再会する』

フリーデ : アインかい！

田中 : 名前違うじゃないですか！ アイゼン・キルシュじゃないんですか！？

GM : だってそう書いてあるんだもーん。シオンにもクエストを渡そう。

シオン : おう、こいや！

GM : 『クリスを守る』。(笑)

クリス : 毎度毎度.....。

## 【ミドルフェイズ】

## SCENE 1 シーンプレイヤー：クリス

- GM : 時間的には11時半くらいでしょうか。
- クリス : とりあえず、待ち合わせ場所でシオンが来るのを待っています。
- GM : シオン君、登場判定ヨロシク。難易度は普通と考えてください。
- シオン : 登場判定で1ゾロが出たら出れませんから、そうしたら1人で行くしかありません。その場合は私、レキカフリーデに捕まっていますから。
- クリス : ええー!?
- GM : ここで出なかったらクズだね。
- シオン : 2d6で4以上だ! やべ、緊張してきた。(ころころ) 出た。
- GM : 登場しました。君たちが待ち合わせてしている場所はどこかな?
- シオン : 格納庫の、あまり一目につかない一角。
- GM : と、巡回の警備の人がコツコツコツ……。
- 田中 : いいベタだな。
- GM : 【反射】で、隠密行動できるか判定してもらいましょうか。夜も暗いですし、照明なんかついていませんので、判定はヌルめで8。
- シオン : (ころころ) 出た。
- クリス : (ころころ) ……。カタン、かつん、ガラガラガラガラ。(笑)
- フリーデ : ここで隠密に成功したらヒロインじゃないさ。
- GM : 「誰だ! そこにいるのか?」声の主はビクビクと照明を照らそうとします。
- シオン : 「すみません、シオンです! 機体の整備に来て……」
- GM : 「なんだお前かよ。こんな時間まで何をやっているんだ。明日作戦だろう」
- シオン : 「だから機体の中で精神を鎮めて寝ていようかなと……。不安ですからね」
- GM : 「そうだろうな。お前くらいの年の奴が第一線に行くわけだからなあ」
- シオン : 「そういうわけで、見逃してもらいたいですけど……」
- GM : 「わかったわかった、無理すんなよ。明日あんだからよ」と言いながら去っていきます。
- クリス : 「ごめんなさい……でも見つからなくてよかったわ」
- GM : 見回りは去っていきました。
- クリス : じゃ、出口に向かいまーす。
- シオン : またひっかかると悪いから、手を引っ張ってあげるよ。
- クリス : ま、ヒロインだわ。
- シオン : ちゃんとヒーローしてますよー。(笑)
- GM : 外に出ると、遠方から変な音が聞こえてきますね。ブルン、ガスン、ボロン、ぶすっ。ぐるるるる。
- ライゼル : 悲鳴が聞こえるようです。「うわあ誰か止めてくださ〜い〜」(笑)
- GM : 噴煙を上げている飛行機が落ちてきます。明らかにあなた方がいる方向に向かっていきます。
- シオン : 弓をつがえて……。
- クリス : こらこらこら!
- ライゼル : 「計器チェック計器チェック! あああ、燃料が漏れてる〜!」
- GM : ブラングリュ内は警戒音が鳴ります。「なんだ敵襲か、作戦がバレたのか!?!」
- シオン : 「クリス、行こう。厄介なのが来たから逃げなきゃマズい!」
- クリス : 約束の場所に向かうってコトでいいでしょうか。……そうだ、指輪はコソっとしたもののの中に隠してあることにしよう。(笑)

## SCENE 2 シーンプレイヤー：ライゼル・シューナー

- GM : ちょっと時間を戻します。あなたは夜のフライトも順調にこなし、目的地であるグランブリュが遠目で確認できるくらいまで来ました。
- ライゼル : 「おお、あれが……」
- GM : すると、コクピットの後ろ側から『ばきん』という音が。
- ライゼル : 「……おや？」
- GM : 『ぼこん』とかいう音と共に煙が吹き出してきます。
- ライゼル : 「見なかったことにしよう。……って、そんなことも言ってもらえん！」
- GM : 前方のプロペラが止まります。
- ライゼル : 「ノウ！」 (ハンドルをぐるぐる回して引っ張りつつ) 「動け動け！ これか！」 (と、マスターが次の内容を指定する前に引っこ抜く)
- シオン : これで、この世界にレシプロ機 (注：レシプロエンジン=燃料と空気の混合気を着火爆発させたエネルギーでプロペラを回転させる。代表的戦闘機は第二次世界大戦時の「飛燕」や「零式」) が存在することになりました。
- GM : ばきんという音共にコックが抜けます。
- ライゼル : 「あれれ……？」
- GM : 明らかに落下加速度は増えています。
- ライゼル : 「なるほど、これが世に言う重力落下というものか。……たーすーけーてー！」——ちなみにハッチは閉まったままなので、外には聞こえません。(笑)
- クリス : 意味ねえー！
- GM : 下では明らかに警戒の光が灯ります。これから着陸する場所が警戒態勢に入ったらしい。
- ライゼル : 「よかった、向こうは私のことを発見してくれたんだ。……警戒しているけど」
- フリーデ : 「そこの飛行機止まりなさい、止まりなさい。応答がなければ撃ち落とします」(笑)
- シオン : 言ったからには出てこいよー。登場判定は10だ！
- フリーデ : 出ていいですか、マスター？
- GM : フリーデさんは自動登場でよろしいです。
- ライゼル : 白旗を揚げよう。手元にあった長い棒に自分のTシャツをくくりつけて白旗を作って、ハッチを開けて振ろうとするんだけど逆風に煽られて「あうううう……」
- GM : それで彼の顔がわかりますね。
- フリーデ : はい。……でもそれ以上の意味はないです。
- GM : フリーデに連絡が入ります。「そいつは味方だ、無事に回収してやってくれ！ このままではグランブリュに落ちて被害が見込まれる、何とか穏便に済ませてくれ」
- フリーデ : じゃ、着地場所に誘導しましょう。ブラングリュのハッチを一部開けて。
- GM : 誘導なんかできると思いますかね、旧式で？
- ライゼル : 私が自分の力で何とか……。
- シオン : つまり【幸運】か。
- ライゼル : 【幸運】か。目標はいくつだ？
- シオン : **30**くらい。
- ライゼル : (ダイスを構えつつ) 30か……。
- 田中 : ニセマスターに騙されるな！ 今のはニセマスターだ！(笑)
- GM : 13かな。
- ライゼル : (ころころ) 8だから、12です。(笑)
- GM : ——というわけで墜落しちゃいます。フリーデさんも飛行機を何とかしないと、墜落したらけっこうコトです。バレちゃいます。

シオン : つまりアレですよ、今すぐ燃料タンクを空にしなければ！

GM : それ以前にヴァルキリーの能力を使えば何とかなるかと。

フリーデ : わたしって今は管制室にいるんじゃないんですか。モニター越しか何かで。

GM : いえ、飛んでいると思ってください。単独で飛べるのはあなたとレーネしかいませんし、レーネはグランブリュにいなければならないので。

フリーデ : ああ.....じゃ、警戒範囲内に入ってきたら火砲で即撃ち落とすなんて、どのみちできないじゃん、ちっ。

田中 : やだなあ、チャックがちょっと開いて黒いものでてるしー。

フリーデ : あら、失礼しました。

レキ : いえ、彼女の場合は口にチャックがついていて、しゃべる時に開くんですよ。自動的に。

フリーデ : 状況ってどうなっているんですか。彼はまだ飛行機に乗ってるのかな。

GM : 肉眼で見えるところでエンジントラブルが起こり、噴煙を上げながら落下している最中です。

フリーデ : そんな迷惑な奴死んでしまえって感じですね。.....いかんいかん、チャックが開きっぱなしだ。

シオン : やべ、公式設定になってる。

フリーデ : 半開きのハッチから無言で飛行機の中に入って操作をし直して、無事に着地させるっていうのは可能ですか？

GM : 自分でやるってことですか、【理知】で6で。

シオン : まあ、普通失敗しないね。

フリーデ : (ころころ) はい、成功しましたー。

ライゼル : 【理知】で6なら、俺、何を出しても成功だよ.....。(笑)

GM : コントロールを取り戻し、無事に着地することができました。

ライゼル : 「ありがとうございます、ありがとうございます」

フリーデ : 「(語尾を遮って) ライゼル・シューナさんですね」

ライゼル : 「はい、そうでございます」

フリーデ : 「今後はこのようなことがないようにお願いいたします。これから奥にご案内いたします。どうぞお降りください」

ライゼル : 「よろしく申し上げます」

フリーデ : そのまま先導していきます。

GM : はい。そこでシーンを切らせていただきます。



## SCENE 3 シーンプレイヤー：クリス（同行者：シオン）

- GM : 無事に目的地に辿りつきました。遠目にですが明日襲撃予定の基地が見えます。ちょっと高台だと思ってください。月のない夜です。
- クリス : 「ここにアイゼンが来る……」って感じで。待ちます。
- 田中 : シオンと一緒にいても大丈夫なんですか。隠れたりしないんですか。
- クリス : 隠れていてもらおうかなあ。
- シオン : 姫の言うとおりに。
- ライゼル : そして何かあったら『さあ、私を助けに来なさい！』
- シオン : 『ははーっ！』
- GM : なんか違うぞ。そうすると、ちょうど待ち合わせの時間に木陰から仮面をつけた男が現れます。
- クリス : じゃ、ハツとして「この手紙をくれたのは……あなたですか？」って感じで。
- GM : 「クリス。会いたかった」
- クリス : 「兄さん。やっぱり兄さんなの？」って感じで詰め寄ります。「仮面を取ってみせて」
- GM : 「その話は今はいい。お前は親から指輪を託されているはずだ。それをこの私に渡すんだ」
- クリス : ……ああ、そういえば話があるとしたか聞いてないんだよな。
- GM : 「そして私の元に来い。悪いようにはしない」
- クリス : 「理由もなくいきなりそんなことを言われても……。言うことを聞くことはできません。どうしてなのか教えてください」
- GM : しばしの沈黙の後、こう言います。「現在、もう一つの指輪はダーモットが所持しているがいずれ私の元にくる。私は今ダーモットと結託している。私はいずれ帝国を討ち、ウェストリを再興する。そのためにその力があるのだ」
- クリス : どうしましょうかね……。
- GM : 「所詮は反乱軍、帝国に抵抗できるほどの力は持っていまい。討ち滅ぼされるのが関の山だ。もう一度言う、指輪を渡してくれ。そして私の元に来るんだ」
- クリス : じゃ「そんなことないわ！」と言い返します。
- シオン : そろそろ出てこようが。登場判定～。（ころころ）出てしまった。
- クリス : 出てしまった、とか言うな！
- シオン : 出た以上はヒーローモードで。
- シオン : 「さっきから聞いていれば、お前はクリスが必要なんじゃなくてクリスの力が必要なんじゃないか！」
- 田中 : ベベベーン！（←SE）
- GM : 「誰だ君は？」と、特に驚いた様子も見せずに聞き返しますね。
- クリス : シオンの元に駆け寄ります。
- シオン : 「そんな奴にクリスを渡すわけにはいかない！」
- クリス : 「シオン君……！」きらきらきらきら。
- GM : 「私はクリスと話をしているのだ。第一、君はここにいる必要があるのかね」
- シオン : 「ある。僕はクリスを守るって誓った！」
- 田中 : （めいっばい悪役調で）ほおう、王子様気取りか。（笑）
- シオン : カンベンしてくださいよー。（笑）
- GM : 「彼女は一国の王の血を引く者だ。たかが一少年である君が守れると？」
- シオン : 「クリスが僕を必要としている限り、僕は彼女を守るよ」
- GM : 「話にならん」と言った後にクリスに目をやります。「私の元に来てくれ。一緒にウェストリを再興し、帝国に復讐をしようではないか」

クリス : じゃ、もう、『復讐』ってところで「やっぱり行けません。私には行けない。今、自分の身に何が起きているのか、流されるままに来てしまって……こんな状態のまま一緒にには行けません！」

GM : 「そうか。ならば仕方がない。力づくでも来てもらおうか」で、ぱちんと指を鳴らします。そうすると、シオンの背後にずっと人影が立ち彼の首筋に刃を向けます。

田中 : おおーっ。

GM : 「こういう真似はしたくなかったのだから。クリス、もしお前が来なければ、守るといった少年が死ぬことになるぞ」

シオン : ……どーすっかなあ、どーすっかなあ。クリスの方を見て、そのまま剣に首を出す。

GM : 「何だこいつ」って感じで、ちょっと動揺はすると思います。

シオン : よっしゃ、スキができた。これでケガしたって脱出する隙間はできたはずだ。脱出する努力するー。

GM : そのための【反射】をしてもらおうか、難易度16で。そのまま微動だにしないでやろうということにしようと思ったんだけど、それではあまりにもつまんねえしな。

シオン : 判定1回ぶんの間をもらえるんだよね。——《コーリング》（パンツァーリッター1Lv 特技。自分のアームドギアを呼ぶ）。

GM : 呼ぶんですか！ じゃ、すぐさま君の背後に白い機体が現れます。君に刃を向けていた人は動揺します。その際に君は肘打ちでもかまして脱出するのかな。

シオン : ういー。

GM : そうすると、「ほう……この機体。ということは、君がこのパイロットか」

田中 : あ、なんかいいな。ガンダムちっくだ。

GM : 「いささか騒がしくなる前に片をつけよう」

シオン : 「そうだね。……こいつ」とクリスに手を伸ばして。

GM : と、今度はクリスの側に兵が回り込み、首筋をと一んと叩いて気絶させます。

フリーデ : あああ～、判定なしで一気に気絶までもっていかれた～。（笑）

シオン : このシーンはイベントで進みます。

田中 : くそ、サイコロくらい振らせろー！（笑）

クリス : じゃ、倒れています。（笑）

田中 : でも、ここで判定結果6ゾロが出たらダメヒロインですよ。首筋と一んって叩いても、ふんっ、って元気なんだもん、そんなヒロインなしですよ！（笑）

GM : そんなマッスルヒロインは嫌ー。

シオン : 「ク……クリス～！」と叫んでおきましょう。

GM : 兵はクリスを抱えて闇に消えますね。「さて。君の処遇をどうしようか」と。見たこともない新しい機体がアインの背中に現れます。

フリーデ : もう後半クール用の機体なんですね。

田中 : ゲルググです。（注：by『機動戦士ガンダム』シャアが37話から乗ったMS）

シオン : 「むろん、やってやるさ！」——でも長くなるから、戦闘シーンはやらない方がいい。

GM : 「さて、君にはそう時間をかけていられないのだよ」

シオン : 「お前を倒してクリスを追う！」

GM : 君が言った次の瞬間、目の前には機体がありません。ばきんという音と共に脚部とバーニア辺りが破壊された音がします。

シオン : 「早い。……見えない！」

田中 : なんでそんな微笑んでるんだよプレイヤー！ 楽しそうだな、『このシーン待ってました』的な！

シオン : だって、今これお約束シーンじゃん。

GM : 「思いもかけない収穫だったな。このまま君も手土産とさせてもらおう」と、君は赤い

機体に連れられたまま基地の方に連れ去られていきます。

シオン : 最後に一言「クリス……」って呟いて気絶しておきます。

クリス : おお、いいねー。いいねー。

## SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（同行者：ライゼル、フリーデ）

GM : 管制室に、フリーデがライゼルを連れて来ます。

フリーデ : 「ゼネラルマテリアル社の方でした」

ライゼル : 「いいえ、私はゼネラルマテリアル社とは一切関係ありません。そういうことにおいでください」

レキ : 「建前は抜きで話をしよう。今私達がどういう状態でここに待機しているのかわかっているのか？」

ライゼル : 「えーと、詳しい話は聞かせてもらえませんでしたけど、なかなかひどい作戦があるよ」

GM : そうすると、「今GM社から、暗号文形式で新しいエージェントに」という情報が。

レキ : 「君宛だ」

GM : パトリック・ウォンが「ここが新しい君の就業場所。ウェストリの残留軍駐留基地を明日叩くことになっているから協力してね。死なないようにね」と。

ライゼル : 笑顔が作り笑顔に変わります。「なるほど……明日なんですね」

フリーデ : 「貴方の行動次第では、今この瞬間にここが戦場になっていたところでした」

ライゼル : 「すみませんでした。外で偵察に出ていた2人組にも後で謝らなければ」

レキ : 「2人組？」

GM : そこに緊急警報が鳴ります。「レキさん、大変です。クリスさんがいません！」

レキ : 「は？ 何故!？」

GM : そしてハンスから連絡がきます。「まずいことになった。王女が捕まったらしい！」

フリーデ : 早っ!

レキ : 話を聞きましょう、どういう状況なのか。

GM : 「まさか」と、ソフィーが崩れるようにその場に現れます。「あの時私、クリスさんの心を読みじゃったの……」

クリス : 読んだのか!

GM : 『この手紙が』という時に挙動不審な行動を取っていたので、彼女は特殊技能を使ってクリスの心を読みじゃったんです。でも、それは悪いと思って言えずにいたんですね。

レキ : 「ソフィーさん、一体どういうことですか？」

GM : 「お兄さんに会いに行くという手紙がきていたんです」

クリス : 思いつ切り読んでいるやんけ!

フリーデ : ……流れがよくわからないのだけど、『姫がさらわれた』というのはどういう形の情報を誰がキャッチして、どうしてその結論に至ったんですか。

GM : 基地にいる作業員からで、『ウェストリの王女を捕らえた』という情報が灼熱のアインから基地内に伝わったそうです。その後、作業員からの連絡は途絶えました。

フリーデ : 基地内でやりとりされている情報を聞き取ったんですね。

GM : あとついでにもうひとつ、――白い機体も捕縛されたそうです。(笑)

レキ : 「なにっ! 誰か格納庫を見てこい！」

田中 : 展開早えーなあ。

レキ : ハンス・ウィルマーに聞いてみます。「こういう状況になったからには、今から出撃するしか方法は……」

GM : 「出るしかあるまい。その情報、偵察に行っているジール達にも伝えねば」

レキ : えっ、もう出てるの?

田中 : ああ、出るって話は最初にあったね。

レキ : ブラングリュで攻め込みたいんですけどね。

田中 : でもブラングリュ使えないでしょ。DNAの姫いないんじゃないや.....。

GM : あ、それは関係ないです。ブラングリュはもう起動したので、あとはコントロールするレーネかフリーデがいれば。

田中 : ああ、エンジンかけちゃったから鍵っ子ヒロインはもういらぬのか。

レキ : 「ジールに追いつくためにブラングリュで一気に攻め込む！ ——ハンスさん、それでよろしいでしょうか」

GM : 「こうなった以上、君たちの判断に任せるしかない。王女の救出も頼む。帝国に王女を奪取されては遺跡が動かさせる可能性がある」

フリーデ : あれ、そういえば状況は認識しているの？

GM : 王女が鍵を握っていることは知っていますが、それがクリスだということは知らないです。

フリーデ : じゃ、『王女』っていう知らない人がぼっと出てきたと思っているんだ。

レキ : 白い機体が確保されたのと王女が確保されたのは、一緒に連れていかれたんじゃないかと別々なんでしょう。

田中 : どちらにせよ助けるしかないでしょうね。

フリーデ : はい。

シオン : 頑張れー。

フリーデ : ええ、首根っこひつつかみに参りますとも。

GM : そういうところでシーンを切らせていただきます。

## SCENE 5 シーンプレイヤー：ジール・田中

GM : 君とミカは順調に基地内部に潜入しました。ミカが見つけた進入経路は確実なもので、君の目から見ても大きなミスはなさそうです。

シオン : さすがミカ！

GM : 彼女は嬉々として「ジール、こっちこっち！」と手招きをしています。

田中 : 「静かにしろ。我々は任務についているんだぞ」みたいな感じで。

GM : 「わかっているわよ、そんなこと言われなくたって。私の言った通りでしょう。ちやーんとだーれもないじゃない」

田中 : 「何回も言っているだろう。強くなりたければその口を閉じることだ」

GM : 「はいはい。そんなこと言ったって、私は大丈夫だって」

クリス : そう言っていると、くるぞーくるぞー。

田中 : じゃ、「ちょっと待て、何か聞こえないか？」とか、適当なことを言っておこう。

GM : 「あ、確かにそうねえ。ちょっと見にいきましょう」

シオン : 行くのか！

田中 : 見るだけは見にいこう。

GM : 途中でミカが立ち止まります。「あれ？ ねえジールジール、ちょっと見てみなよ。あれってさ、新型の動力甲冑だよな？」見たことのない真新しい動力甲冑があります。

田中 : 「確かに」

GM : 「警備が手数になっているって聞いたけど、こんなのがあるってことはやっぱり異なのかなあ」

田中 : 「その可能性が高いな」

GM : すると、「格納庫を開けろ、アイン様が帰投なされたぞ！」という声が聞こえます。

田中 : とりあえず……隠れるしかないよね。

GM : 「なにになに？」と行こうとします。

田中 : 「バカ、隠れるんだ！」

フリーデ : ……いい感じですねえ……。

GM : 角のある赤い機体が、見知った白い機体を担いできます。

田中 : 「まさか！」

GM : そうですね、アームドギアです。外部からハッチが開けられシオンが担ぎ出されます。どうやら気絶しているようです。

田中 : 情けない。ここで助けるわけにもいかんだろうしなあ。

GM : アインが「妹はどうした？」と言う声が聞こえます。「先に専用の個室にお連れしました」「わかった」と、アインは去っていきますね。

田中 : シオンは放置方向で。ミカを抑えて別方向に内部侵入しようとしていますよ。

GM : そうすると、ミカが「まずいよ……。あの白い機体ってあたし達の機体じゃない。早く戻らなきゃ！」と言って、一人でさっさと駆け出します。

田中 : なにーっ！？

レキ : ここは抑え込むべきでは。

シオン : いえ、ここはさっきマスターがやってくれたでしょう。――首筋を打つ。(笑)

GM : じゃ、とーんと首筋を打った瞬間にサイレンが鳴ります。気絶する寸前にミカが踏んだところに警報機があったらしい。

田中 : しかも気絶したのか！

GM : 考えられない速度でゾルダードがだーっと出てきます。囲まれちゃいますね。

田中 : うわーっ。

シオン : まあなんだ。……可愛そうに。

GM : 奥から「なんだなんだ、侵入者か？ 俺がいるところでいい度胸だな」と、巨大なバトルアックスを背負った傷だらけの男が現れます。「儀礼として聞いてやる。刃向かって死ぬか捕虜となるか。選べ」ジールだけなら可能でしょうが、ミカを背負ったままでは逃げることは不可能だと思ってください。

シオン : 『不可能』と言われましたよ。

田中 : もう戦うしかないでしょう。

GM : 戦うんですか。

田中 : 一応ね。捕虜だったってどうやって捕虜になるねん、って感じなんだけど。

GM : いろいろと情報を聞き出すんじゃないですか。何をしていたか、とか。

フリーデ : ああ、捕虜という名のミンチ肉じゃないんですね。

田中 : 社の命運がかかるわけだから、ここは切り抜ける方向で頑張りますよ。しょうがないもんね。

GM : ひとついえることは、今はプリムローズに加担しているので、ジールさんの服やアイテムはGM社のものではないものを身につけています。

田中 : ああ……。ミカもいることだし捕まってみようか。戦って勝てそうではないんですよ、マスター？

GM : 無理です。なぜなら、目の前にいる巨体の男こそが“戦慄の”ゼロです。

田中 : 見当はついていたけどね。じゃ、まあ、しょうがないから捕まらしましょうよ。

GM : はい。じゃ、投降したところでシーンを切りましょう。

レキ : ..... 4人捕まったんだけど、どうしましょうか？（笑）

## SCENE 6 シーンプレイヤー：クリス

- GM : 君が気づくと……部屋ですね。密封された部屋。
- クリス : 密封っていうなー！（笑）
- シオン : 軟禁状態なわけね。
- クリス : じゃ、一生懸命にドアをがガチャガチャとやってみましょう。
- GM : 開きません。が、しばらく後にながちゃっと扉が開き、君の目の前に一人の少女が投げ出されます。ぽーいっと。
- クリス : 思いがけないのでびっくりします。
- GM : 「相席だ。よろしくな」と一般兵が言って、また鍵をかけますね。
- フリーデ : 王女と下々の女を同じ部屋にするとはい！
- GM : 一般兵には情報は公開されていないようです。
- クリス : あれですか、ぶっちゃけミカですか。
- GM : ええ、ミカです。
- クリス : やっぱり。じゃ、「大丈夫？」と。縛られていたりとかはしていないんだよね。
- GM : 大丈夫ですね。ミカも気がつきます。「あたたたた……何するのよ、ジール……って……ここどこ？」
- クリス : 「ジールさん？ ジールさんがここに来ているの？」
- GM : 「あれ？ クリス、なんでこんなところに？」
- クリス : 「私……んー……ちょっと外に出た時に捕まってしまって……。ミカさんはどうしたの」
- GM : 首の辺りをさすりながら「ひよっとしたらあたしって……捕虜？」
- クリス : 「まあ、ぶっちゃけ」
- GM : 「嘘お。そんな……どうして？」と言いますね。「ジールは？ ジールはどこ？」
- 田中 : ジールばっか言うなよ、もう。
- GM : ミカは今まで見せたことのない気弱な顔になります。「え……私のせいで……作戦、失敗するのかな？ 私のせいで、ジールに迷惑かけちゃったのかな？」
- シオン : マスターひで一。反転属性付きにしやがったよ。
- クリス : 掛ける言葉が見あたらない。
- 田中 : ここはヒロインですよ、癒し系でいかないと！
- クリス : 「みんな大丈夫ですから落ち着いて。それに泣いていたって何もはじまりませんもの」
- GM : 「そうかなあ……そうだよな」と涙を拭いながら、「このままじゃ、またジールに役立たずって言われちゃうもんね」
- 田中 : そんなこと言ったっけ。
- GM : 自分ではそう思っていたらしいです。と、またガチャッと扉が開きます。そこには軍ではまず見ない貴族っぽい格好のおっさんが。彼は「いい、ここで待て」と警備の人に言って扉を閉め、クリスの方に目をやります。
- クリス : ちょっと後ずさりますよ。
- GM : 「ほう、確かに姉上の面影があるな」
- クリス : 「姉……？ どういうことです。あなたは一体」
- GM : 「おお、そうか。確かに余とおぬしが会ったのはおぬしが幼少の頃だからな」
- クリス : 「ということは、あなたは私を知っているの。どういうこと。私をこんなところに連れてきて……」……って……、セリフが浮かばねーよ！（笑）
- シオン : 頑張れ！
- GM : 「わかりやすく説明してやろうか。余の名はダーモット。ウェストリ王国の第二王位継承者だ。おぬしが余にその継承権を渡すなら、余が第一位だがな。余はミーティア



を得てウェストリを再興させようと思っている。ウェストリのためを思っているのだ。それほどの重責、おぬしには耐えられまい。さあ、余に指輪を渡すがいい。それでおぬしは自由になれる」

田中 : なんか.....基本的には間違っていないですね？(笑)

フリーデ : そして需要と供給が一致してしまいそう？(笑)

GM : 「第一、あれはおぬしには過ぎたシロモノだ。余がミーティアを正しく使ってやろう」

クリス : 「正しく使うということは、戦を起こすということですか」

GM : 「当然であろう。まず我が王国を踏みにじった帝国を蹂躪する。新たな国を築くためだ。些細な問題であろう。ミーティアの力をもっていればすぐ済む」

クリス : 「そして、あなたが第二の帝国となるのですね。——そのような者にミーティアを動かす資格などありません！」

田中 : お、いい感じですね。ヒロインメーター上がってきましたよ。

GM : 「ほう。おぬしは国を支えるということがどういうことかわかっているのか？ 指輪の1つは手中にある、もうひとつもいずれ手に入るだろう。ここにいる限り、おぬしは指輪を渡す運命にある」

シオン : ダメだ、指輪はコソっとしたものと一緒なんだ.....！(笑)

クリス : あれ、本当にそういうことになっちゃったの？

GM : 「答えは翌日にでも聞かせてもらおう。そうそう、逃げだそうとしてもムダだぞ。おぬしの戻るべき場所など、明日なくなるのだからな」

クリス : 「何ですって！ あなたたち.....」.....えーと、ホワイトベース (by『機動戦士ガンダム』地球軍の強襲揚陸母艦。主人公が乗っている) じゃねーや、えーと「私たちの船に何をするつもりなの」

レキ : グランブリュ、グランブリュ。(笑)

GM : 「何のことかな、はっはっは」と言って、ボタンと戸が閉まる。

クリス : かくんと膝をつきます。

GM : ミカが「感じ悪いおっさんねー。.....で、クリス、あんたって王女様なの？」

クリス : 「黙っていてごめんなさい」

GM : 「あれね、国の重さとか私にはわからないけど、あんなんが王になるくらいだったらクリスになってももらいたいなー」と言います、この女。

クリス : ちょっと微笑んで「ありがとう」と。

## SCENE 7 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク

- GM : 君は独房の中で倒れているところに気がつきますね。
- シオン : じゃ、「クリス！」と。
- GM : 見回してもクリスはいません。思い出すのは一瞬にして倒された自分。——そうしていると扉が開いてアインが入ってきます。「君とは少し話がしたい。いいかね？」
- シオン : 「いいも悪いも、僕に拒否権なんかないだろう」
- GM : 「確かにそうだな。だが君とは対等に話がしたい。……どうだ、あれほどの動力甲冑の乗り手、帝国にもいない。私の元で働かないか？」
- シオン : うわ、魅力的だ。
- クリス : なびくなー！
- シオン : だって、俺が必要だって言ってくれるんだもん。
- クリス : さんざん『いらぬ子』って言われてきましたからね。
- GM : 彼は扉を閉めて、「私はいずれ帝国に反旗を翻す。その時の同志を探している」
- シオン : 「じゃあ、なぜ今クリスと共に僕たちを手伝ってくれないんですか」
- GM : 「反乱軍とでは先が見えている。帝国の力は強大だ。それはお前達も知っているだろう。現に帝国に反逆して残った者はいない。領土を取り返したことすらない」
- シオン : ……うわ、何言ってもすっげー負け犬にしかならない。
- GM : 「だが、私はもうすぐこの手に帝国を打倒する切り札を手に入れることができる……そう、ミーティアだ。聞けば君の両親もウェストリ出身とのこと。志を同じにすることはあっても、違えることはないはずだ」
- シオン : ……やばい……断る理由が1個も見つからない……！ うわああああん。
- GM : でもだからといってさ、この男のいうことを信用していいのか？
- シオン : 初めて自分が必要だといってくれたから……。
- GM : 「悪い話ではないだろう。今は帝国に与するしかないが、上層部に言って、帝国軍の軍務についてももらうこともできる」更にこう言いますね。「それでも君には手みやげが必要だな。私がいくら取りなしても上の者は認めまい。君にはひとつの任務を与えよう。グランブリュの奪取とソフィー・ウィルマーの捕獲だ」
- シオン : 「ソフィー・ウィルマー……」
- フリーデ : ここで出ましたか、ワールドヒロイン！ ゆく先々に現れるなあ。
- クリス : ああそうですか（拗ね）。
- GM : 「彼女はプリムローズの象徴であり、ハンスの実の妹だ」
- シオン : 「ソフィーが？」あんまりだ、その言い方をされるとまた俺『ソフィーが！』とか言わないといけなくなるよー。今回『クリスのために』って頑張ってたのにー。
- GM : そのためにソフィーと仲良くしてもらったんですから。
- シオン : 「ソフィーを捕まえてどうするの」
- GM : 「見せしめだ、可愛そうだがな。シャード持ちの、しかも反乱軍の象徴。落とすしかあるまい？ 君にもいろいろ思うところがあるだろう。翌日に答えを聞かせてもらおう」
- シオン : 「くっ」
- GM : で、がたっと出ていきます。

## SCENE 8 シーンプレイヤー：ジール・田中

- GM : あなたはシオンの隣の独房にいます。
- シオン : さっきの会話は漏れているわけじゃないよね。
- GM : シオンが大声で叫んだ時のみ聞こえますので、シオンがいることだけはわかります。
- シオン : 大声で叫んだっけ？
- GM : .....何か叫んだんだよ。(笑)
- 田中 : どうしよう。全部取られてニンジャ道具もないんでしょう？
- ライゼル : いや、髪の毛の中からヘアピンを出すとか。(笑)
- クリス : ヘアピンしているのか、ジール・田中。
- GM : ジールさんの七つ道具はどこにでも収納されています。抜け出したければ【反射】で判定してください。
- 田中 : 【反射】低いよ？
- GM : でも目標値は5ですから。
- 田中 : (ころころ) あ、大丈夫です。11です。
- GM : 開錠に成功します。なんか知らないけど悩んでいるシオンがいます。
- 田中 : 「シオン、逃げるぞ！」と、とりあえず。
- シオン : 「ジ.....ジール、なんでここに」
- ライゼル : 『助けに来た！』
- 田中 : 「俺も捕まっていた」(笑)
- GM : するとジールにようやく連絡がきます。——(ライゼルに) どうぞ、向こう側！ 登場してください。
- ライゼル : 「ジール・田中さん、ジール・田中さん。応答してくださーい。こちらライゼル・シューナー。本日よりこちらに赴任してまいりまして.....」
- レキ : 「ええい、貸せっ」がしっ。(笑)
- ライゼル : 「あああっ」
- レキ : 「ジール、大変だ。こちらの作戦がバレた！」
- 田中 : 「ああ、こちらもミカが捕まった」
- レキ : 「ミカだけか？ こっちの.....」
- フリーデ : 「お借りします！」がしっ。「ジール・田中、シオン様は.....！ シオン様はご無事ですか？」(笑)
- 田中 : 「シオンだけ確保。何か悩んでいるようだ」
- レキ : 「シオンは確保したのか。こちらはグランブリュで向かっている。あとはクリス、クリスだけは守ってくれ」
- 田中 : 「必ずクリスとミカを確保する」とは言っておこう。「白い機体は期待するな。ダメな場合は破壊する」
- レキ : 「できる限りは確保してくれ。よろしく頼む」

## SCENE 9 シーンプレイヤー：フリーデ（同行者：レキ、ライゼル）

- GM : 君らはレーネと共にグランブリュを操作しながら前線基地に向かっています。
- フリーデ : 表情は変わっていませんが、内心やや焦り気味ということ。
- GM : そうしますとあなたのシャードが反応して、おそらくクリスのものであろうシャードの反応を感じます。これがレーネが言っていた、ガーディアンシステムですね。
- フリーデ : それはそれとして。安心はできないのです、あれはクリスだから。
- GM : それとは別に波長は弱いのですが、君の見知ったシャードの反応があります。どうやら移動しているようです。
- シオン : クリスの部屋に向かっています。
- クリス : どっちを選ぶか。
- フリーデ : 今回は迷うことはないです。クリスめがけて突貫すればシオンにも会えるんだから。
- GM : 突貫するんですね？
- フリーデ : はい。「レーネ、このまま。皆様はわたしとハッチに移動下さい」
- レキ : 「ライゼルさんは私と一緒に」
- ライゼル : 「はい」
- シオン : 『総員戦闘配置につけ、総員戦闘配置につけ。繰り返す、これは演習ではない！』（by真珠湾攻撃/1941年）
- フリーデ : そのセリフは基本ですか。
- レキ : 演習なんかしたことかないですけどね。（笑）
- GM : ブラングリュの艦首に淡い光が出て、完全装備状態になります。
- シオン : うわーん、この機体ピンポイントバリアーがあるー。
- GM : ピンポイントなんて生やさしい。ラムができただけですよ、ラムが。向こうの基地からもゲバルトギアらしいものが出てサイドに向かって攻撃をしかけてきます。
- シオン : そんな蚊トンボ！
- フリーデ : それは他の人に任せてしまっていいものなんですか？
- レキ : ホーミングレーザーとかあるんじゃないですか？ 管制やっているレーネさんに任せます。指示出すでしょう。
- GM : 抜けてくる奴がいますから、それを落とさなきゃいけないです。ゲバルトギアは、飛行力のある新型器のようです。
- 田中 : うちの飛べない白い機体とは大違いだ。
- GM : 本当の力を発揮すれば同等になりますよ。
- 田中 : まじですか？ 信じてますよ、その言葉！
- GM : .....嘘です。（笑）
- シオン : 本当の力を発揮するにはあと19レベルだな。
- レキ : 敵がきて、一番手が薄そうなところに3人で向かっている感じで。

### ■戦闘I VS 帝国動力甲冑飛行試作型×5体■

[行動順] 行動値12 レキ  
行動値11 フリーデ  
行動値8 動力甲冑飛行試作型  
行動値5 ライゼル・シューナー

- レキ : 敵は着地しているんでしょうか？
- フリーデ : あ、そうか。レキは相手が地についていないと攻撃できないね。
- GM : いや、フリーデに乗っかればいいんです。
- フリーデ : え、その場合のわたしの行動の制限は？ 命中や回避ロールに支障がないならそれで

いいんですけど、そもいかなんじやないかなあ。

GM : 大丈夫です、レキの卓越したサムライ技能とフリーデのバランス能力でペナルティはなしとしましょう。

フリーデ : レキを乗せて飛んだ上にわたしも普通に戦闘ができる、と。

GM : OKです。フリーデが戦闘を行う時だけ空中に投げてまた着地するという演出があってもいいです。その代わりにフリーデとレキはエンゲージしてください。

ライゼル : 「わあすごいや、2人して飛んでいるよ～」

GM : その新人はサポートを何か、踊りでも何でもいいから。(笑)

フリーデ : じゃ、「レキ」って手を伸ばしてぐっと引っ張って、そのまま飛びましょう。

レキ : 「ちよいと失礼」って言ってその上に乗ります。……どうやって乗っているんだろうなあ。

フリーデ : 私は片手武器だけど、レキは両手持ち武器で戦ってますからね。

GM : 飛行状態だから背中に乗って……？

田中 : やっぱ背中に立つのが一番楽なんじゃない？

レキ : ビジュアル重視ということでそれで。フリーデに乗っかって、一番近いゲバルトギアを攻撃。

シオン : 《なぎ払い》(ファイターLv2特技。物理攻撃を[範囲:選択]にする)ー!

レキ : ないんです。《集中》(ファイターLv2特技。命中値+2)と《二刀流》(サムライLv2特技。命中判定を2度行い、任意の片方を採用できる)を使って(ころころ……ころころ)20と22。クリティカルしました。

GM : バケモノだー。(ころころ)きてください、どうぞー。5体用意したんだけどなあ、瞬殺されるのかなあ。

シオン : 7レベルですよ、レキは。

レキ : ダメージ、3D6で斬りまーす。(ころころ)7の、24点とって〈斬〉りました。

GM : 次、フリーデさん。

フリーデ : はい。《ディスチャージ》(ヴァルキリー1Lv特技。武器属性を〈雷〉にする)でガトリングガンいきます。対象は[範囲:選択]～。えいっ。(ころころ)20。

田中 : クリティカルは？

フリーデ : しません。余計な特技取っちゃってるせいで、クリティカル値は下げられなかったんです。

GM : (ころころ)避けられるわけじゃないじゃないですか。

ライゼル : 《コンビネーション》(ヴァグランツ41Lv特技。自分以外のダメージロールに+2D6)。+2D6。キャノンで援護射撃。

フリーデ : わーい、じゃ、3D6～。(ころころ)11+16で27の〈雷〉っ。

GM : え。27の〈雷〉……。

フリーデ : す、吸ったりしませんよね？ 回復したりしないですよ？ したらごめんねー。

GM : 残念ながらこの機体はそこまでの装備が整っていないようで。

レキ : ということは1体は落ちたか？

GM : まだ落ちていません。こちらの行動で、エンゲージしているあなた方2人に5機がそれぞれ攻撃を。

レキ : え、5機が。

GM : いっきまーす。まずレキ、(ころころ)15。

レキ : (ころころ)ちょうど15。回避しました。避けた。

GM : ゲバルトギアはその動きを見て驚きます。「なんだあいつは、バケモノか！」

レキ : 「未熟だ」(笑)

GM : うわーん、M60突撃機関銃の銃弾斬られちゃったよー。今度はフリーデかな。(ころころ)15。

フリーデ：はい。（ころころ）15回避。次どうぞー。（笑）

田中：すごいねえ。

GM：くそ、今度は大丈夫だ！ [範囲：選択] であなた方2人に（ころころ）19だ！

フリーデ：うわ、避けられませんよそんなのはー（ころころ）だめ。ください。

レキ：こちらも避けましょう。（ころころ）全然だめですね。

フリーデ：この攻撃に《カバーリング》（ハンターLv1特技。他人をかばう）したら、ダメージは  
どうなるんでしょう。一緒にもらえるんですか？

GM：まあ、そうなるんですね。

フリーデ：その場合ダメージは累積して2倍になるの？

GM：[範囲：選択] の同じ数字なので、2倍はならないんじゃないですかね。斉射した時に  
攻撃線上にいるかいないかの話ですから、カバーした場合は盾になったわけで、その  
時に当たったダメージだけを見るわけですから。

フリーデ：じゃ、《カバーリング》。

レキ：こっちが《カバーリング》した方がいいんじゃないかな。耐久力あるし。

フリーデ：あ、そうか。それで、その後は交互にダメージを受けた方が被害は少ないですね。

レキ：《カバーリング》します。

GM：いきまーす。（ころころ）18点の〈刺〉。

レキ：14点削られた～。

GM：次の命中は（ころころ）18点。

フリーデ：そんなお茶目な数字を言われても困るんですけどね……。 （ころころ）無理です～。

レキ：（ころころ）1点足りない。

フリーデ：今度はこっちが《カバーリング》？

レキ：いや、こっちで耐えるだけ耐えましょう。《カバーリング》～。

GM：（ころころ）うわ、低っ。13点。

フリーデ：……いつの間にか協力して戦っているなあ。

レキ：連携してますね。

敵5体が各個に放つ攻撃はなかなか強力なものがありましたが、

《カバーリング》を使って範囲攻撃を交互に受けることでダメージを軽減。

3R目でレキがブレイクし残り2人もそれなりのダメージを負いましたが、

加護を使うことなく、敵を3体にまで減らすことが出来ました。

GM：次のラウンド入ります。あと3体！ あと3体！

フリーデ：またわたしが先に行動します。普通に3対象にガトリングガンいきまーす。（ころ  
ころ）あれ、命中するかなあ。16だ。

GM：10以上が出れば回避！（ころころ）4……。

フリーデ：（ころころ）……あ、今《ディスチャージ》忘れちゃった。（ころころ）19の〈殴〉  
です。まだ生きてます？

GM：はっはっは、全部落ちました。「ばかなー！」って次々と落ちていきます。

フリーデ：彼らの声を淡々と聞き流しながら「こんなところで時間をとっている場合ではありま  
せん」

田中：このままでは姫が寝てしまいます。（←前日睡眠時間の厳しいヒーロー&ヒロインの  
プレイヤーさんは寝てました……忙しい中お疲れさまです）

フリーデ：寝入っている2人の元に早く行かなければ！

レキ：「姫、ご無事で！」

シオン：……熟睡していた。

フリーデ：おはよー。

GM : そんな感じで、戦闘が終わる頃には前線基地が目前に迫ってきます。

フリーデ : あ、自分のとレキのケガは治しておきます。レキに(ころころ)7点回復.....《ヒール》(ホワイトメイジ1Lv特技。HPを2D6回復)もう1回いるかな?

GM : レーネが「突撃体制に入りますので皆さん耐ショックシステムを取ってください」というところでシーンを切ります。

フリーデ : 「シオン様.....。今、参ります！」

## SCENE 10 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク（同行者：ジール・田中）

- GM : シーンプレイヤーは.....この場合クリスかな。
- シオン : その方が、我々が「助けに来たぞ！」と登場判定で出ていけるし。
- GM : あ、その前にシオンやろう、一瞬で終わるから。シオンとジールが2人で探していますけれど、基地内ということで広いですね。どこにいるかもわからない。
- シオン : 「こっちだ、ジール！」と適当に嘘をつくとか。
- GM : ごめん.....シオン、本当にそうなんだ。
- 田中 : え!?
- GM : 君にはわかる、クリスのシャードの光が。
- 田中 : じゃ、「わかるんだな？」って感じでそちらに向かおう。「信じているぞ、お前を」
- フリーデ : あ、ジールさんの必殺技が出た。――丸投げ。（笑）
- 田中 : プレイヤーもジールも2人ともこうです。『お前に任せる!』『お前しかいない』（笑）
- GM : それに、どうやら慌ただしくなってきたようです。
- シオン : 「ジール、クリスはこっちに違いはないよ。あと、フリーデが近くに来ている!」
- 田中 : 「新しい人類がいると聞いていたが、もしかするとお前のことかもしれないな」
- シオン : 「違うよ、シャードが言っているんだ」
- 田中 : ニュータイプじゃん、あんた！（by『機動戦士ガンダム』ぴきーんな人々）
- GM : シャード持ちはみんなニュータイプになりますから。
- 田中 : そちらの方に向かいます。



## SCENE 11 シーンプレイヤー：クリス

GM : 先程からざわめきが起き、揺れも感じます。戦闘音でしょうか。

クリス : 「これは.....何かあったんでしょうか」

GM : ミカは「何か脱出する手はないかなあ」とかそこらじゅう探しています。

クリス : ドアをどんどん叩いてみたりとか.....窓はないんだよね？

GM : 窓はないです。するとクリスさん、あなたのシャードが反応し神託が聞こえますね。  
『巫女よ、白き巨人の乗り手が来ます。.....お逃げなさい』

シオン : ええー！？

GM : 『奈落が迫っています』

フリーデ : ああ、『巨人の乗り手から逃げなさい』ってことじゃないんだね。

田中 : でもどちらともとれる言い方。

クリス : というか、逃げろと言われてもどうやって逃げれば？

GM : そうすると——（シオンに）はい、登場してください。

シオン : 了解。登場判定はいらないらしいので。

GM : そうするとミカが「え、どうしたの？ 何？」

クリス : 「.....シオン君が来る」

GM : 「え、なんでわかるの？ まあいいけど」どんどんどん。

シオン : 「クリス、ここか！」

クリス : 「シオン君、私はここよ！」

シオン : 「離れているろ！ 扉を蹴りあける」ジールさんいくよー。

田中 : もう火縄のついた爆雷みたいな奴で、しゅー、ばしゅつ。（笑）

GM : 蹴る前にばしゅ、って音と共にずぼっと扉が倒れます。

シオン : すいません、もっと危なかった。

ライゼル : そこには下敷きになったミカが。（笑）

GM : そんなことないよ、クリスと一緒にちゃんと避けています。ジールの姿を見てミカは飛びつきます。「ジール、よかった無事で！」

田中 : えー.....。まあ、それはそれで何も言わないよ、もう。

GM : 「さあ、早く逃げないと！ このままじゃまた捕まって、今度こそ殺されちゃうよー」.....と言っていると、君たちにはわかります。何か来る、白い塊が！

田中 : うわー。確かに正しかったんだ、『白い巨人の乗り手から逃げなさい』は！

GM : さあ皆さん、【幸運】で判定してくれ。あ、シオンは《コーリング》（パンツァーリッター1Lv特技。自分のアームドギアを呼ぶ）で何とかしていいよー。

シオン : とりあえず《コーリング》（パンツァーリッター1Lv特技。自分のアームドギアを呼ぶ）して、クリスとタンデム。

GM : ジールは、彼らの助力がない場合は【幸運】を-1くらいしてもらえますか。ミカさんもセットになっていますんで。

田中 : というわけで助けてくれ。

シオン : わかりました。ヒーローくさく、《コーリング》（パンツァーリッター1Lv特技。自分のアームドギアを呼ぶ）してクリスとタンデムしてジールさん達も乗っけて、そのまま飛ぶよ。しょうがないから。

田中 : しょうがないからとか言うなー！

GM : すんでのところでは何とかあります。向こうも殺すために突っ込んだわけじゃないですし。

田中 : じゃあどうなの、白い味方の中に入れるのかな。

GM : ブラングリュの艦首に突っ込みました。突撃口みたいなところから——3人、登場してください。

フリーデ：「シオン様.....無事で、本当によかった」

ライゼル：あれがシオンさん、ジールさん、クリスさん。.....誰？

シオン：ジールさんのいいなづけのミカさん。

GM：奥のレーネが「クリスは無事に保護したようですね。一刻も早くここから撤退しなければまずいかもかもしれません。強大な奈落の力を感じます」

田中：「撤退しよう、ここももうダメだろう」と、適当なことを言っておこう。

GM：ここであなた方に新たなクエストを全員に差し上げます。『帝国軍基地から脱出する』

## SCENE 12 シーンプレイヤー：なし（全員登場）

- GM : レーネが「おかしいです、船が起動しません。さっきの衝撃で回路がおかしくなっ  
たようです」
- 田中 : 保たせるなあ、話を！
- フリーデ : 「修復には時間がかかるのですか？」
- GM : 「5分もあれば何とかありますが、それまでこの船に侵入を許さないように防衛して  
もらえますか」
- 田中 : 「5分くらいだったら簡単だろう」と。
- GM : 「クリスマス、あなたは大事な身です。安全なところにいてください」
- クリス : 「でも、みんなが外で敵と戦っているのに？」
- GM : 「あなたの身はあなただけのものではありません」
- レキ : 「クリス。なぜブラングリュがここにつっこんでいるか、その理由を考えたまえ」
- シオン : ..... すいません。私今回、何も言えません。
- レキ : 「シオン。二度言わせるな」（笑）
- GM : ゴルダードが攻めてきます。「生かして返すな、奴らを倒せば手柄だ！」
- シオン : 「ここは通さん、死守する！」って.....何を死守するんだろうね。
- 田中 : よくわかんないけど、テキトーに死守すればいいんじゃないですか。
- シオン : でも俺、ブースターとか直してもらわないと。
- 田中 : そういえば白い奴は故障中？
- GM : 完全稼働はしていません。バーニア部分を少し破損しており、片足の付け根を破壊さ  
れています。
- シオン : 「今のうちに応急手当をお願いします。僕は出ます！」
- GM : いつも整備の補助をしているオッサン達整備員達が「ひでえじゃねえか。まともに動  
かせねえぞ！」とか言いながら出てきます。
- シオン : 「けど、これに乗らないと僕は.....！」
- GM : 「5分でこの船飛ばすってんだってな。俺にはこの船を直すことはできねえが、コイ  
ツなら直してやれるぜ？」
- シオン : 「.....5分でお願いできますか？」
- GM : 「3分でやってやる！」
- 田中 : おおお、盛り上がりますね！
- シオン : 「信頼しています！」
- GM : 「おう、その代わり3分は持ちこたえろよ、死ぬな坊主！ ——てめえら、こいつ  
をひっぱりあげるぜ、手伝え！」 .....というところでシーンを切ります。

## SCENE 13 シーンプレイヤー：なし（クリス以外全員登場）

- GM : グランブリュ周辺を5分だけ防衛しなければなりません。モブのゾルダード達はほとんどザコみたいなものですね。
- シオン : ザコ言うなー！
- GM : ゾルダードはモブ10人の5部隊くらいにしておきましょう。10だと物理的に画面に入りきらないので。
- 田中 : 10部隊でもいけるのに一。
- GM : 「こいつを倒せば銀十字勲章ものだ！」と身の程知らずなことを言っています。
- レキ : 「十字架はお前らの墓に立ててやる！」
- GM : ……そんなことで、軽く戦闘してもらいましょうか。
- ライゼル : 皆さん、頑張ってください～。
- GM : あ、クリスさん、あなたは戦闘に参加していませんのでよろしく。
- シオン : 奥に行けて言われたけど、どうする？
- クリス : どうしようかなあ……。

### ■戦闘II VS 帝国一般兵（モブ）10体×5グループ■

- [行動順] 行動値15 ジール・田中  
行動値12 フリーデ  
行動値11 レキ・ストランド  
行動値7 シオン・シュタウク  
行動値5 ライゼル・シューナー  
行動値なし 帝国一般兵（モブ）10体×5グループ

- フリーデ : 自分の番がくるまで終わってしまいそうですね。
- 田中 : いきまーす、《忍法：金遁の術》（ニンジャLv4特技。[範囲：選択]で〈斬〉5D6ダメージ）。——「こんなこともあると思って爆弾を用意しておいた！」がしやつ。（ころころ）あ、命中は平均だ。14。
- GM : 【抗魔値】ですか。（ころころ）どうぞー。
- ライゼル : そこで《コンビネーション》（ヴァグランツ41Lv特技。自分以外のダメージロールに+2D6）。こっそり後ろで配線とか手伝っていた。「私、こういうことなら得意です」（笑）
- フリーデ : なんて気の回る人なんだ。
- 田中 : 6D6 + 2D6～。いきましよう。[範囲：選択]で（ころころ）それぞれに34〈斬〉です。
- GM : 24オーバーキルしました。全・滅！ うわー、モブ50人瞬殺だよ。恐ろしい。1分かかってねーよ。
- シオン : 全体に8Dって加護以上だよ！
- 田中 : 「危ないところだった」
- GM : そうしますと、遠くの方から重い鉄を引きずるような音がしますね。
- フリーデ : そっちか！ そういえばまだ邂逅してなかったね。
- レキ : こっちでしたか。
- GM : 「ほう、お前達がこの戦場の臭いをつれてきた張本人か」君が見知った人物——“戦慄の”ゼロが現れます。
- シオン : さあレキ、ここ見せ場！
- 田中 : 俺はもうシオシオのぷーなんで、あとは任せた。
- シオン : 嘘つきー。

GM : 「今こいつらを片づけた奴は誰だ？」

レキ : 「我々だ」

GM : 「ほう……？」と、引きずっていたバトルアクスを肩にひょいっと担ぎ上げます。「面白い、久しぶりに楽しめそうだ。相手をしてもらおうか」と構えますね。

レキ : 刀を抜きましょう。

GM : 「ちょうど退屈していたんだ。お前達と遊んでもらおうか」

レキ : 「望むところだ！」

## SCENE 14 シーンプレイヤー：クリス

- GM : 君は独房.....とはいませんが、安全な場所に隔離されています。
- クリス : か、隔離.....。でもなんか音がするし、どうしようどうしよう。
- GM : 遠くでは爆発音とか聞こえますね。「消化作業を急げ!」「畜生、この船判らないよ、どこを修理すればいいんだ!?!」
- クリス : .....ええ一つ。とりあえず、どう出ていったもんかねえ。
- GM : 一方であなたには常に呼びかけられていますね。『奈落が近づいています。早く逃げてください』
- クリス : とりあえず制御室に行ってみましょうか。大丈夫かどうか聞きます。
- GM : 制御室ではレーネが1人で必死に修復作業を行っています。
- クリス : 特にもうできることはないのかなー。
- GM : 「クリス様、無事で何よりです。あなたは安全なところに避難しててください。後は全て私がやります」
- 田中 : ヒロインがんばれ、ここが見せ所だ!
- クリス : えええー!?
- GM : 「今はミーティアとあなたの保護が最優先です。無茶なことはお控え下さい」
- クリス : 『あなたの保護』ですか.....そう言われるとなあ.....。
- 田中 : ええ、ダメだよばんばん出ないと!
- GM : そうすると、君から見える窓に赤い機体がひゅっと飛んでくるのが見えますね。方角的に、彼らが戦闘をしている地域に向かっていきます。
- クリス : 「何ができるかわからないけど.....このまま大人しく部屋には何事も解決しないような気がする!」と言って、駆け出します。
- GM : 駆け出しますか。「クリス様、お待ち下さい」と手を掴もうとするのですけれど、あなたの方が一足早かったようで届きません。そのまま向かうんですね。
- クリス : 向かいます。

【クライマックスフェイズ】

## SCENE 1 シーンプレイヤー：なし（クリス以外全員登場）

- GM : 君たちの前には巨大なバトルアクスを構えたおっちゃんがあります。そして、後ろから爆音と共に赤い機体が現れます。
- シオン : 2体相手かよー。
- GM : ゼロは言いますね。「なんだアインか。俺の獲物を横取りしないでもらおう」アインは答えます。「横取りはせんさ。私の任務は王女と指輪の奪還だ。それ以外には手を貸さんよ」と。ゼロは「そうか、じゃ、こいつらは俺が料理していいんだな」
- ライゼル : 我々、奴の目に入っていないような。「ドズル様、私もそのエモノに含まれるんでし  
ようか」
- シオン : ドズル言うな、ゼロ、ゼロ。（笑）
- GM : それに対しては無言の笑みで答えますね。
- ライゼル : 懐で《ファミリア》（ヴァグランクツLv2特技。MPを共有できる動物を所持している）のチワワがガタガタブルブル震えています。（笑）
- シオン : ファミリア、チワワかよ！
- GM : 「ここは任せた。私はこの白い船の中に入れていただこう」と、グランブリュに入っていきます。ゼロは赤い機体の背後にどかっと立って、「さあ、戦いを楽しもうではないか！」と。
- フリーデ : その人をすり抜けて奥に行くには？
- GM : 小柄な人物ならできます。フリーデは女性型ですから通り抜けることは可能です。
- ライゼル : ゼロに対して《お願い》（ヴァグランツLv3特技。自分の願い事をきいてもらう）は使えるのでしょうか。
- シオン : 相手の命にかかわらないことであればOKが出るんだよな。
- GM : 【意思】で判定しますが、《お願い》の仕方によりますね。
- ライゼル : 《お願い》の仕方ですか.....。
- シオン : 情けないことを言わせれば天下一品！
- ライゼル : じゃ、ガタガタと震えて神様にお祈りしながら「嫌だ、死ぬのは嫌だあああ」と、そ  
っちの方に逃げようとする感じで。（ころころ）14でしたー。（笑）
- GM : （ころころ）君には目も向けません。強そうなレキに最初の一太刀を浴びせます。最  
初の一撃はイベントなのでダメージは与えませんが、明らかにパワーが違います。
- シオン : さ、ここで通り抜けながら一言。本当に強いつてことは情けないことなんだよ！
- ライゼル : いや、そんなことはしない。ジールの方に目を向けながら、こう。(-\_☆)b
- GM : 「お前できるようだな、俺と戦え！」と。
- レキ : ぐううっと押される感じで。
- フリーデ : レキに「任せました」って、横を抜けていきまーす。
- レキ : 誰が残るんだよ！（笑）

### ■戦闘III VS “戦慄の”ゼロ■

[行動順] 行動値15 ジール・田中  
行動値12 レキ  
行動値10 “戦慄の”ゼロ

残ったのはジール・田中とレキだけ。2対1です。

- 田中 : 《忍法：金遁の術》（ニンジャLv4特技。[範囲：選択]で〈斬〉5D6ダメージ)を先に使わせてもらうね。（ころころ）あ、失敗。1ゾロです。
- ライゼル : ああ、俺がいれば～。

レキ : 斬りつけにいけます。《集中》(ファイターLv2特技。命中値+2)と《二刀流》(サムライLv2特技。命中判定を2度行い、任意の片方を採用できる)。(ころころ.....ころころ)1回目でクリット、23。2回目19。.....23のクリティカルで命中です。

GM : (ころころ)それは避けられない。ボスとはいえ人間なんで。

フリーデ : 頑張れー。そしてわたし達にも経験点をくださいー。

レキ : トリガー引きますんで4D6で。(ころころ)なんでこんなに低いんだ。23の〈斬〉です。

シオン : 基本ダメージは幾つなんだ？

レキ : 〈斬〉16。

田中 : 低い。(笑)

GM : ちょっと通りましたね。相手は傷つけられた自分の体を見て「血がたぎる.....お前の血を見せろ！」と言います。

田中 : バトルマニア。

シオン : うわーん、変質者だ。

フリーデ : まあ、この光景で息を荒くしていたらヘンタイさんですけどね。

ライゼル : 『へっへっへっ旦那ア、傷くれよ傷〜』(by『花の慶次』甲斐の蝙蝠)

シオン : それ違うから。

GM : 「お前とは普通の戦い方では辛いようだ。本当の力を見せねばなるまい！」と《巨大化》(クリーチャー特技。HP2倍、ダメージ+1D6)を使います。

シオン : おい、そもそも人じゃねえじゃねーか！

田中 : いやいや、これは技術ですよ、帝国技術です。

GM : ボンと筋肉がふくれあがったということですね。

フリーデ : ああ、特撮戦隊ふうの巨大化じゃなくって、戸愚呂弟っぽい巨大化なんですね。(by『幽遊白書』)(笑)

GM : そして、オリジナル特技《叩きつけ》。《巨大化》(クリーチャー特技。HP2倍、ダメージ+1D6)したので3D6のダメージいきます。(ころころ)あ、ごめん、クリった。

レキ : (ころころ)クリティカルはしません。

GM : ダメージいきますね、痛いから覚悟してください。(ころころ)あうっ.....。29点の〈斬〉です。

シオン : ここで《タケミカツチ》(サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える)使っておく？カウンターでどんどんダメージは削った方がいいかもしれない。

レキ : 《タケミカツチ》(サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える)を使って23点を返します。叩き付けられた時に手首でも斬ったれ。ぐしゃ。

GM : ほう、いきなり放ちますか。あうっ、痛いよ結構。

シオン : ダメージ与えるチャンスは、だあっと与えないとエライ目に遭いそうな気がする。

GM : 「貴様と戦っていると思ひ出す。あの時の戦いをな」

レキ : 「こちらも思ひ出すぜ、殺された仲間のことをな！」

フリーデ : なんかいいい感じになってきましたね、どっちが死んでも絵になりそう。(笑)

GM : 次のフェイズよろしく〜。

田中 : ちゃっちゃと解決しないとだめだもんね。《忍法：金遁の術》、また使います。(ころころ)うわ低い。14。

GM : 回避いきます。(ころころ)防御側有利で回避しました〜。

この戦闘が自分達のラスト戦闘と見た2人は、積極的に攻撃をかけます。

ゼロの《旋風撃》(ファイターLv8特技。物理攻撃を[転倒]効果付きの[範囲：選択]にする)



はジールの《エーギル》（エージェントの加護。対象の判定をファンブルに変更させる）で無効化し、畳みかけるように特技で攻撃をしていきます。

2 R目、ジール・田中の《忍法：金遁の術》もかなりのダメージを与え、レキの攻撃も命中。

田中 : さあ、ここだ！ ここなんだよ！

レキ : 《ツクヨミ》（ニンジャの加護。他人の加護を使用させる）あるんですよね？

シオン : 《トール》（ファイターの加護。ダメージロールに+10D6）いっておく？

レキ : いっておきましょう。《トール》！

田中 : 《ツクヨミ》で《トール》使います。でもあれですよ、向こうの《タケミカツチ》（サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える）きたら終わりですよ。

シオン : 大丈夫、こっちはまだブレイクしてない。

レキ : では12Dでいきますんで。（ころころ）59の〈神〉です。

GM : 59の〈神〉ですか。そうすると、それを《タケミカツチ》。そのダメージは君に跳ね返ります。

田中 : 言え、ここで一言！

レキ : ブレイクしまーす。「まだまだ一っ！ 貴様などには負けるものか！」

GM : さすがに今のダメージはかなりくらったようです。「しぶとい！」

3ラウンド目。ここで決めないと相手の反撃でレキの死亡は確定です。

ジールは《ヘイムダル》（スカウトの加護。自分の判定をクリティカル）を使用し、27点のダメージを与えます。

GM : まだおちない。が、さすがに崩れ始めています。

田中 : あと任せる。さすがに何もないから。

フリーデ : .....わたし、そっちに戻りましょうか？

田中 : いや、間に合わない。到着する頃には死んでいるから。

フリーデ : セットアッププロセスに登場判定して戻って来れば、シーン中に登場できますよ。

田中 : ああそうか、《イドウン》（ホワイトメイジの加護。キャラクター人を復活させる）があるんだもんね。

フリーデ : でも個人的にはやりたくないんですけどね.....。シオンについていたいから。あ、わたしじゃなくってクリスが登場判定で出ていくのも美味しいよね？

クリス : 私もそう思ったんだ。

フリーデ : クリスなら、レキにコネがあるんだよね。だったらそっちの方がいいか。

クリス : ありまーす。

シオン : 高いところから登場して飛び降りながら《イドウン》。

GM : まず命中判定します、どのみち命中しなければならないんで（ころころ）19です。

シオン : 19なら、避ける目がある！

田中 : あるね、12が。（注：レキの【回避値】は7）（笑）

フリーデ : それ、数字自体に意味はないじゃないですか。（笑）

レキ : うりゃっ。（ころころ）15。

GM : じゃあ《ネルガル》（攻撃対象をシーンに存在する任意数のキャラに変更）で、レキさんには更に《トール》いきます。

レキ : ジールに《カバーリング》（ハンターLv1特技。他人をかばう）。どうせくらうんであれば両方いきます。これで《タケミカツチ》うちますよ、当然。

GM : いきまーす。（ころころ）痛いぞー.....って、なんでこんなに1とか3ばかりなの？

レキ : いや、頼むからここでいっぱい出して。これで相手死んでくれないと.....。

GM : 53点の〈神〉ダメージと11点の〈斬〉ダメージいってください。

フリーデ : 毎回、気持ちよく死にますねえ。

レキ : 《タケミカツチ》、58点を返します。

GM : あなたの肩にぎっくりとバトルアクスが刺さりますが、同時に彼の体はまっぴたつに引き裂かれます。

フリーデ : かつこよすぎるよレキさん～。

クリス : 全身傷だらけになりながら倒すんだね。

GM : ゼロは「ちっ、俺の運命もここまでか。まあいい。……地獄で先に待っているぜ」と、がはっ、と死にます。あなたは刺さったアクスの重さで倒れ込みます。でもつつかかって倒れきれない。——あなたの脳裏に親友の顔が浮かびます。

レキ : 走馬燈が見えるんですね。

GM : 最近一緒に任務をこなした仲間やクリスの顔が最後に浮かんで消えそうなところですよ。

田中 : 近づくよ。「レキー！」

レキ : 「ジ……ジール、いるか？ 奴は……死んだのか？ 倒したのか？」

田中 : 「倒した。お前が倒したんだ！」みたいなことをとりあえず言うよ。

レキ : ……うわ。ヒーローいつもご苦労様です。「ジ……ジール、あとは姫を……クリスだけは何とか……頼む……」

田中 : 「しゃべるな、しゃべるな……！ 医者はどこだ？ ち、こんな時にまだ奴らは来やがる」と、今も敵がくるイメージで。(笑)

GM : ゴルダード共はまた来ますね。ゼロが倒されているのでたじろぎますが「今だったら俺らだって成り上がれる！ やっちまおうぜ！」

クリス : (ころころ) 登場～。レキがまさにこときれそうな瞬間……いいですか、加護で。

GM : でしたらその前に、ちょっと演出入れてもらいましょうか。

クリス : いや、こと切れようとした時に《イドウン》という言葉がいくのがいいかなあと思って。

レキ : 《イドウン》とか言うよりはセリフの方が美味しい！

クリス : じゃ、「レキさん！ 何てことに！」という声がします。

レキ : 「ク、クリス……？」もう目が見えない状態ということで。「なぜ……ここに来ている！」

クリス : 「レキさん。本当に王位を継承する者は、ただ守られているだけではいけないのです」

田中 : おお、プリンセス属性きたっ。

クリス : 「今私になすべきことがわかりました。今度は私があなた方を守ります！」

GM : そこで《イドウン》。——深々と刺さっていたバトルアクスが押し戻され、からんと落ちます。血みどろだったレキの血が光の中に消えていき、何事もなかったかのように鼓動が聞こえてきます。

田中 : 「これがオラクルの力……」……テキトーに『オラクル』を強調しておこう。(笑)

GM : ゴルダード達は「ば、バケモノ……。シャード持ちだ、逃げろ！」と。

レキ : 「クリス……。……私は生きていますのか？」

クリス : 「レキさん。あなた方のために私も戦います！ 今度は私が守ります！」

シオン : すげえ、クリスが今一番成長している。

クリス : 王位継承の件はこころへんでケリをつけようかなと。

GM : ちなみにクリスさん、一つだけ確認しておきます。指輪は今手持ちでしょうか。

クリス : 指輪は、コソっとしたところに挟んで……。 (笑)

GM : 了解しました。そういうことにしましょう。



## SCENE 2 シオン（同行者：フリーデ、ライゼル）

田中 : 3人もいれば大丈夫だろう。

シオン : そんなことないですよー！

GM : 君たちがアインを追いかけていくと、「クリスを何処にやった？」とゲバルトギアに乗ったアインが白い機体に目をやりやがら言っています。「仕方がない。この船を行動不能にして、指輪の確保とこの機体を……」と。下にいる整備班が「うおおお、こいつには手は出させねえ！ アイツが来るまで守るんだ！」

シオン : 整備兵とか変なおっちゃんだけは得意な奴だよなー。

GM : 「どけ、殺すぞ」とアインは言います。

シオン : 「そこまでだ、アイン！」

GM : 「君か。……あの時の答えを聞かせてもらおう」

シオン : 「これが答えさ！」と言って、《コーリング》（パンツァーリッター1Lv特技。自分のアームドギアを呼ぶ）。

GM : ぴかっと白い機体が光ると同時に「間に合ったぜえ、3分台！ ここまでがメンテナーとしての俺らの仕事だ。戦うのは貴様の役目だ！」（笑）

ライゼル : お前、それが目的だったのか。

GM : ちょっとあった。皆さんはあまりにも超人的な処理のためにばたつと倒れます。残った整備兵がずりずりと引きずっていきます。

シオン : 実は泥臭くやりたかったんだな。

GM : 「ならばこの機体を破壊して火種を潰さねばな。行くぞ！」と戦いに入ります。……何か言う、それとも無言の戦闘に入る？

シオン : 何か言っておこうかなあとと思ったんだけど、考えつかないからいいや。クエストを絡めたセリフを吐いておきたかったんだけど、いまいち形にならない。

### ■戦闘IV VS “灼熱の”アイン■

【行動順】 行動値22 灼熱のアイン

行動値11 フリーデ

行動値9 シオン・シュタウク

行動値5 ライゼル・シューナー

GM : アインは行動値22です。

フリーデ : 通常の3倍ですからねえ……。 (笑)

シオン : こいやー！

GM : 君にいきなり《絶対先制》（帝国軍専用特技。セットアッププロセス時にアクションを1回行える）。

フリーデ : 言うと思った。初登場時もそうでしたからね。

シオン : 帰れバカ、ちくしょー！ つД)・°。°。°。°\*..。

GM : シオンに……普通にいこう。（ころころ）24。

シオン : なんだよその数字！（←【回避値】9）

フリーデ : どんどんお茶目な数字になっていきますね。

シオン : クリティカル以外無理じゃねーか。（ころころ）あ、クリった。

フリーデ : 「シオン様、なんていう動き！」

GM : 「何い、速度が上がっている！？」

シオン : 「あんたの太刀筋は一度見せてもらった。一度くらいは避けてみせる！」

レキ : 『一度くらいは』……。 (笑)

GM : 「こいつ……戦いの中で成長しているということか！？」

田中 : なんか機動戦士っぽいですよ。  
シオン : 何合か打ち合った後にこれが出ればおいしかったのにねー。  
GM : でもほら、その前に何もされずにいきなり太刀を浴びせられて倒れたわけだからさ、はるかな進歩だよ。  
レキ : おいしいシーンなんじゃないかなと思いますよ。  
フリーデ : 次、アインどうぞ。  
GM : .....ああそうか、もう一行動できるんだ  
田中 : ああ、《絶対先制》（帝国軍専用特技。セットアッププロセス時にアクションを1回行える）ってもう1回行動できるんだったつけ。  
フリーデ : 戦闘開始時に、1回余計に行動できる特技なんですよ。  
GM : じゃ、《フレイヤ》（加護。イニシアチブフェイズでクリティカル攻撃を一度行う）でシオンに《トール》（加護。ダメージロールに+10D6）いきます。（ころころ）  
フリーデ : .....ということは、この後もう一度動くんですね。（笑）  
シオン : 帰れバカー！  
GM : （ころころ）ふふふふふふー。66の〈神〉ダメージですね。  
シオン : 帰れバカ！ ブレイカー！ 「僕は諦めない！」  
GM : 「やはり先程とは違う.....。あの時は一瞬で倒せたが、こいつ、明らかに力をつけている」もう一度いきますね。命中の基本数字18なんだよねー。（ころころ）23です。ごめんよ。  
シオン : おいちょっと待て！ それ、こっちのダイス目意味ないじゃん！  
田中 : クリティカルの有無だけお願いします。  
シオン : （ころころ）あ、ファンブルに近い.....。  
フリーデ : 《カバーリング》（ハンターLv1特技。他人をかばう）。  
GM : 《トール》いきます。（ころころ）61の〈神〉ダメージ。  
フリーデ : ブレイカー。「シオン様、大丈夫ですか.....！」  
GM : というわけで、これで彼の行動は終わります。「若造が！」  
シオン : 「勝てなくても抗うのが若い奴の特権だ！」トミノちっくに話しておけば何となく戦闘っぽいし。  
ライゼル : マスター、そんな戦闘の間に（通信機を手に身をかがめて）こーんな感じで「ジールさんジールさん、ちょっとやばいっす！」と読んでます。  
GM : 許可します。  
シオン : よし、これで登場判定の余地ができた。

.....という形で2R目のセットアップフェイズで登場判定、全員登場です。

GM : 皆さん現れた、ということで。  
レキ : 「間に合ったか！」と。.....服がちぎれているんですけど、これは？  
シオン : 読者サービスということで。（笑）  
フリーデ : それは重要ですね。  
GM : 「あまり時間がない。早く目的のものをを見つけなければな。早めに勝負をつけさせてもらう！」と（ころころ）命中はクリティカルしました。更に《フレイ》（加護。加護ひとつをコピーして使用）で《トール》コピー！  
レキ : まだ加護をとっておいたほうがいいなら《カバーリング》しますが。  
シオン : 師匠らしくかっこつけますか。  
レキ : 《カバーリング》します。  
シオン : そこに俺《トール》って言いたい。.....言おうかなあ、更に《トール》。

GM : きたよ、マスター泣かせの攻撃パターンが！ 待って……（ころころ）102の〈神〉ダメージ。

ライゼル : 《ブラギ》（ヴァグランツの加護。加護ひとつを追加で使用可能にする）で、《タケミカツチ》（サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える）。  
「あ、目の前に敵の装甲の継ぎ目が〜」（笑）

レキ : 「何一つ！ そこを突けということか！」……受けた分跳ね返して、ブレイク。

GM : うっわ、こんだけあったのがこんだけしかなかったよ。

田中 : まだ立っているんですね。

GM : 立ってます。

シオン : さすがボスだ！

GM : 「やはりこいつらは数々の修羅場をくぐってきただけのことはあるようだな。ならば長居は無用！」

田中 : 15で一す。マイナーアクションで消えます。《奇襲攻撃》（スカウト1Lv特技、ダメージ+3&クリティカル率UP）で《忍法：金遁の術》（ニンジャLv4特技。〔範囲：選択〕で〈斬〉5D6ダメージ）〜。（ころころ）クリティカル出ました〜。7D6+3のダメージですか。

GM : （ころころ）ごめん、クリティカルしちゃった。

ライゼル : そんなあなたに《運命の女神》（ヴァグランツLv1特技。対象の判定を振り直させる）がほくそえむ。振り直しなさい。

GM : ひどいよみんなー。（ころころ）ごめん、クリット。

ライゼル : そこに《エーギル》（エージェントの加護。対象の判定をファンブルに変更させる）？

シオン : いや、特技はともかく神業まではいかない方がいい。

ライゼル : まあ、クリティカルが2回出たところで諦めろと。

シオン : まだ俺の《トール》あるしいろいろあるから、ここで一気に畳みかけると困ることが起こるかもしれない。

フリーデ : ……今回、ずいぶん余裕ありますね。わたしはまだ加護が全部残ってますよ。

クリス : 私は2つ、《フレイ》と《オーディン》が残っている。

シオン : 《ヘルモード》と《トール》が1枚ずつ残ってる。

2 R目冒頭にアインの攻撃を跳ね返した後、ジール、レキ、フリーデと順々に通常攻撃を行い、相手の耐久力をちくちくと削っていきます。

フリーデ : そういやわたしブレイクしていたんでしたっけ……あああ、トリプルガトリングにしておけばよかった。失敗しました……。 （ころころ）ガトリングガンで攻撃、〈雷〉の17点。

GM : それは武器の一部を破壊して、避雷針代わりにしてダメージ0の《ティール》（自分の受ける実ダメージを0にする）いきます。

フリーデ : あれ。これで？

シオン : もう余裕はないんですよ。

田中 : なに一つ。これでもうトドメさせば終わり終わり。もう撤収撤収〜。（笑）

レキ : て、撤収？

田中 : そこまで余裕があるぞということですよ。これで出ないわけがないよー！

シオン : ないよねー。（ころころ）

ライゼル : ここでファンブル出したらいらぬ子だよ？（笑）

シオン : ……《切り返し》（ファイターLv4特技。命中判定の振り直し）……。やべ、ここで俺1ゾロ出す自信あるよ！（笑）

GM : そんな自信いらねえ！

シオン : (ころころ) あ、大丈夫だった。20。

GM : (ころころ) くれ。

シオン : 《トール》《猛攻》(ファイターLv1特技。ダメージに+1 D6)《戦士の手》(ファイターLv1特技。命中半定時のクリティカル値-1).....これで12D6か。(ころころ) 39+16で、55の〈神〉。

田中 : 終わったな。終わったー！

GM : 爆散します。その煙が大きいので少しおかしいと思いますね。

シオン : 「逃げる気か!？」.....って言っておけばいいんだよね。(笑)

GM : モーター音が聞こえます。ハッチに向かってはいないようです。

シオン : 「指輪はどこ!？」

GM : ーというわけで、戦闘は終了しました。倒しましたが逃げられました。

## SCENE 3 マスターシーン

GM : 居住区にいるソフィーさん。

田中 : .....え、まさか？

クリス : うわー。全っ然ノーマークだった。

GM : 彼女の目の前に仮面の男が現れます。手には封筒を持っています。「ほう、思わぬ収穫だ。指輪だけを手に入れるつもりだったが。お嬢さん、一緒に来てもらいましょう」と、当て身を当てて気絶させます。

シオン : なんて.....なんてそんなことでヒロインをレベルアップさせるんだ！

フリーデ : さらわれたからクリスが一步リードだと思っていたのに、ソフィーもさらわれちゃったよー。

クリス : あの女ア.....。(笑)

GM : 「シオンといったか。勝負は預けさせてもらう」と、アインは破壊寸前の赤い機体に乗り込み、逃げ出します。

【エンディングフェイズ】



## SCENE 1 マスターシーン

- GM : あれだけの戦闘の後なので、アインは傷を負っています。指輪を持ってソフィーを担いで戻ります。
- シオン : コソっとしたものと指輪を持って行かれるとは……！
- GM : ええ、コソっとしたものと本当に持って行かれました。
- 田中 : えーっ。それ、彼に可愛そうだ！ 彼がコソっとしたものを持つなんて！
- GM : いや、そのコソっとしたものが実は重要なものかもしれないですよ。
- レキ : それはビジュアル的に何か……。
- GM : 傷を負ったアインの前に男が現れます。「おぬしも大したことはなかったようだ」ダーモットです。「……くっ。しかし指輪は手に入れた。後はクリスを我が元に迎えば起動することはできる」と言いますが、それに対して「彼女はもう必要ない」と答えます。彼の横にはクリスとうり二つの女性がいますね。
- クリス : エイリアスか！
- GM : 「ダーモット、その少女は……！」と言われるとダーモットは「そう、おぬしの妹のエイリアスだ。彼女さえいればミーティアは起動する。さあ、指輪をよこせ」と言いますね。「いや、妹は必ず私が連れ戻してみせる。時間をくれ」とアインは言います。「ふむ、まあ、いいだろう。あと一度だけチャンスをやろう。必要ないことには変わらないがな」
- シオン : やべ、ダーモットのレベルが上がっている。
- クリス : 小悪党のクセに！
- GM : そのダーモットからは普段感じられない異様なオーラを感じます。彼はにやりと笑ってその場を去っていきます。「くっ、俺には時間がないのか……」と言って、アインは膝をつきます。

## SCENE 2 シーンプレイヤー：ジール・田中

田中 : あ。去るのか。

GM : 君は新任のライゼルに引継ぎをして、自室に戻って支度をしています。するとノックの音がします。コンコン。

田中 : このパターン何回もあるような気がする。実際は2回目なんだけど。(笑)

GM : 戸を開けますと、うつむいたミカが立っています。「あ、あの、さあ……」と目を合わせないで言います。「ちゃんと。謝りに、来たんだ。足引っ張って……ごめんね」

田中 : えーと、ぽんと叩いて「君は十分戦える力がある。その正義感をこれからもプリムローズのために役立ててくれ」と、適当なカバンか何か持って去る感じで。

シオン : ひでえ、なんだかんだ言って相手のツボをついてるよ。

GM : 「うん……。ジール、……もう行っちゃうんだよね」

田中 : 「仕事だからな」

GM : 「また、会える……かな」

田中 : 何て言うんだろうな、「そのおしゃべりを閉じていれば、いつか会うこともあるだろう」と。

GM : そうすると、君が遠ざかっていく背中から「今は実力不足だけど、いつかきっとあなたにそぐうくらいの実力をつかんで見せるから！ また会ってねー！」

田中 : もう何も言わずに去りますよ。——忍びですから！(笑)

フリーデ : 出た。

GM : 「いつか振り向かせてみせるからー！」と、ミカがとびっきりの笑顔で送ります。

シオン : ジール、なんだかんだ言いながら相手のツボついてガールズに巻き込んで去っていくんだね。

## SCENE 3 シーンプレイヤー：クリス

クリス : 指輪は離しておいた方が安全かと思ったんですが、すいません。

GM : 指輪が奪われてしまったという事実にはショックを覚えていますね。

クリス : 身につけているとさらわれた時やばいかもと思って離していたんですが、アダになったようです。

GM : すると、落ち込むあなたに対してシャードが語りかけてきます。『王者の資格は力ではない、ましてや指輪でもない。答えは自らの手で見つけるのだ。世界を救え、クエスターよ。いかなる苦難に会おうとも、諦めることなく前進するのだ』

クリス : 世界かい！ いきなり話がでかくなりましたね。「私はあの時決めました。臣下が王を守るように、王もまた民を守らなければならないのだと。私はみんなを守ります！」

田中 : すげー。よく言えるなあ。

ライゼル : でも、よくよく考えてみるとクリスもコソっとしたもの見ているんだよね。(笑)

クリス : 気にすんな！

シオン : 思春期の女の子だ。

フリーデ : そういうのも見て、今回大人になったんだね。

田中 : 生々しいな。

クリス : いやいや、シオン君が大事にしているものみたいだから、隠しても大丈夫かなー、って思って。

## SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド

- GM : クリスは無事に救出することができた。結果オーライです。前線基地も壊滅的なダメージを与えたし。
- レキ : 壊滅的……まあ。
- GM : 陥落するというまではいきませんでした。後のプリムローズにより、君たちの活躍のおかげで前線基地を陥落することに至ります。初の奪還が成功しました。
- レキ : その報告を聞いて、何とか肩の荷が降りたって感じで。で……次の問題に。
- GM : 同時に、ハンスの妹でありプリムローズの象徴でもあるソフィーが奪われたと。
- 田中 : ソフィーを救わなきゃならなくなりましたね。
- GM : 彼女は帝国に捕らわれたなら必ず処刑されるだろうと。反乱軍の象徴ですから、見せしめの処刑として。彼女自身はシャード持ちであるために元々帝国に狙われる立場なんです。
- 田中 : かなりピンチですね。
- GM : すると、ハンスから連絡がきます「今回の作戦成功、感謝している。これでプリムローズは新たな戦いに赴くことができる。民衆達にも力を借りることができた」
- レキ : 「だがソフィーさんが……。申し訳ありませんでした」
- GM : 「いや、ソフィーのことも覚悟は決めていた」
- レキ : 「ここで諦めてはだめでしょう。どんな手を使っても取り返さなければいけない」
- フリーデ : ソフィーがいろんなことをゲロる前にトドメ刺さないかねー。(笑)
- クリス : 黒いなあ。
- レキ : いやいやいや。
- GM : 「しかし私はプリムローズのリーダーだ。私情に走って妹を助けるという命令は下せない」と、彼には珍しく悩みを見せています。
- 田中 : お、そこを次のシナリオに繋げましょう。
- レキ : 「ハンスさん、ソフィーは十分にプリムローズの象徴として活躍をしています。その彼女を見殺しにしたとあってはプリムローズの名目が立ちません」
- GM : しばらく言葉を詰まらせた後、ハンスは言います。「レキ、これはプリムローズのリーダーでなく私個人からの依頼として受け取ってくれないか。ソフィーを助けてくれ」
- レキ : 「わかりました」
- GM : 「頼む」と言うところで切れます。
- レキ : (他のメンバーに) ということでヨロシク。(笑)

## SCENE 5 シーンプレイヤー：フリーデ

GM : 何とか無事、使命のひとつであるクリスを守ることはできたということですね。

フリーデ : 結果としては.....そうです。お二人とも無事に戻られましたから。

GM : レーネはあなたに言います。「今回、指輪が奪われたそうですね」

フリーデ : 「はい」

GM : 「ミーティア自体は第一王位継承権を持つ人物が起動スイッチを押さない限り起動しません。しかし何か邪悪な真意を感じます。このままでは何かよからぬことが起きるような感じさえします」

フリーデ : 「それはわたし達には関係のないことではありませんか？ ミーティアを守り動かすことがわたし達の役目なら、誰が動かすどう使おうが関係ないはずですが」と、試すような口調で言ってみます。

GM : 「そうなのですが.....」と、レーネはしばしの沈黙の後答えます。「何か恐ろしい感じが私の思念に入ってくるのです。何かおぞましい.....そう、あの感覚は奈落.....」

フリーデ : 「奈落」と、その言葉を繰り返してみます。言われてわたしは何か感じるんですか？

GM : あなたは感じません。ただ奈落というものの存在は理解できます。

フリーデ : まあ、知識としては知ってますからね。「奈落、ですか」と相づちを打つだけ、みたいな感じで。

GM : 「私には感情というものがほとんどありません。ですがそんな私もこれが恐怖というのでしょうか、自分がなくなってしまうような感じがするのです。確かに私は制御プログラムです。自分の意志などありません。しかしそれ以前の何かが失われてしまうような感じがするのです。それは.....自分ではどう説明していいかわからないのです」

フリーデ : 「レーネ、申し訳ありませんが、わたしはあなたとその感覚を共にすることはできないようです。わたしがクリスを守るのは彼女がミーティアの起動キーを持つ者だからではありませんし、クリスを守ることを自分の最上位に置くことはやはりどうしてもできませんでした。恐らく、わたしはもう制御プログラムではないのでしょうか。そしてわたしは、恐怖を知ると同時に恐怖に立ち向かう術を既に得ています。.....あなたとは道が分かれたってしまったようです」

GM : そのことに対してレーネはしばらく沈黙しています。「ですが、あなたはミーティアの制御プログラムです。そのことは忘れないでください」と言って去っていきます。その後ろ姿がちょっと寂しそうに見えます。

フリーデ : じゃ、去り際に「レーネ」と声をかけます。「ミーティアは守ります。クリスも守ります——ミーティアを扱う人間だから、という理由ではありませんが」と。

クリス : ええ人や.....。

GM : 彼女は振り向かないで、しばらく聞いた後去っていきますね。

## SCENE 5 シーンプレイヤー：ライゼル・シューナー

GM : 引継ぎをジールさんからした後、自分の部屋に行くと通信が入ります。

ライゼル : どんなのだろう。

GM : パトリック・ウォンです。「やあ、元気にしているかい？」

ライゼル : 「はっはっは……。生きているって素晴らしい」

GM : 「最初の任務はうまくいったようだね。君に任せてよかったよ」

ライゼル : 「いやあ、皆さん優秀な人たちばかりで」

GM : 「そうだろうそうだろう。君の能力も最大限に活用できるところだし」

ライゼル : 「私にはどんな能力があるんでしょう？」私がやったことは命乞いをして逃げた、ジールに助けを求めた。……だけ。

シオン : 他にやっているじゃないですか。ジールの爆弾設置を手伝ったとか。

GM : 「君はあくまで接着剤だから。君単独の能力は期待してないでしょ。けどね、君は隙間を補う最強の能力を誇っている。更に言うなら、君は生存に関する能力はピカイチだ」

ライゼル : 「そうでしょうか」

GM : 「少なくとも、他の社員はそこには派遣できないよ。君はどんな戦地からでも必ず生きて帰ってくるから」

フリーデ : ……微妙な評価だな。

GM : 「とりあえず1年くらいみといてよ、そこ。ジールには更に過酷な任についてもらうしかないわけだからさ、頼むよ」

シオン : そう、各国のジール・ガールと繰り広げられる冒険が。(笑)

田中 : 嫌だ、絶対嫌だ～！ ヤシマに帰りたい。

GM : 「今後ともよろしくね、じゃあね」と言ってぶつんと切れます。

ライゼル : 昇る朝日に向かって「生きているって素晴らしい……」

## SCENE 6 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク

- GM : 最後にシオン君。
- シオン : あ、俺のシーンまだだっけ。
- GM : 一番最後にとっておいたんだよ。
- シオン : 今回ショックなことが多すぎるよ。
- GM : ええ、更にショックなどめがきましたね。指輪が盗まれたことは確かに大変なことですが、君には実感がありません。
- ライゼル : アインにコソっとしたのが見られた！
- GM : そうじゃなくて、ソフィーがさらわれた。
- シオン : 「この艦に来て初めての友達だったのに……」
- GM : そして君は、ソフィーの立場や捕まったらどうなるかをアインから聞かされている。
- シオン : 「助けに行かなきゃ！」
- 田中 : いいねー。トミノちっくですよ。
- GM : そんなところでレキ君、登場よろしくをお願いします。
- レキ : 出てきましょう。
- シオン : 荷造りしています。
- レキ : 荷造り？
- GM : 一人で助けに行こうと思っているんでしょう。
- レキ : コンコン。「シオン、話がある」
- シオン : 「何でしょう。僕もちょっと急いでるんです」
- レキ : 「何だ、荷造りをして」
- シオン : 「ソフィーがさらわれたんでしょう？ この艦に来て初めての友達なんです。助けに行かないと」
- レキ : 「それについての話だが、これからこの艦はソフィー救出の任務につく。お前も一緒に来てくれないか」
- 田中 : 荷造りした意味ねーじゃん。(笑)
- シオン : 「来るなど言われたって行きますよ！」
- 全員 : おおおーっ！
- 田中 : あれ、ちょっと待って。なんかすごいラブコメな方向性に……。
- ライゼル : クリスと違って即断即決。
- クリス : 何ー？
- GM : まあまあまあ。
- シオン : みんな待て、ちょっと待て。何かを誤解している。俺は一言も恋人だなんて言っていない。友達のために頑張りますよ。
- フリーデ : うん、みなまで言わなくていいですよ、態度で自ずからわかるから。
- シオン : ……今まで絶対、ソフィーの方が上だもんねー。
- フリーデ : 友達からはじまる恋ですね。
- レキ : 「これから、ブラングリュは補給を受けながら」——でいいですよ——「ソフィーの連れていかれた帝国領土へ向かう。また過酷になるだろうが、よろしく頼むぞ」
- GM : 厳密にいうと帝国領土までは戻ってません。まだウェストリ廃王国領内ですね。
- シオン : 「わかりました。これからも色々教えてください、レキさん」
- レキ : 「わかった、シオン」

## 【おまけ】

シオン : 「(深刻な口調で) .....ひとつ聞きたかったんですが、指輪をコソットしたものの.....」

レキ : 「(同じく深刻な口調で) あれは気づかなかった」

シオン : 「ということはですよ.....」

レキ : 「ああ。クリスは.....」

シオン : 「コソットしたものの.....見たんですよね」

レキ : 「そういうことになるな」

ライゼル : しかもじっくり1ページずつ。

シオン : 「でも、コソットしたものの一部足りないんですよね」

レキ : 「(もの凄く沈痛な口調で) .....奴と一緒に持っていった」

シオン : 「ああ.....え? ええ? 指輪だけじゃないんですか?」

レキ : 「一緒に持っていったよ.....」

シオン : 「僕、クリスが持っていつているんだと思った。じゃ.....アインは、コソットしたものと指輪を持っていったんですね」

GM : 君たちのビジュアルの中にアインが「これは」とか言って真剣な顔で読みふけているのを想像する。

レキ : それを後ろからそっと覗いているソフィーがいるんですね。

フリーデ : 『認めたくないものだな.....』 (by『機動戦士ガンダム』シャア : 認めたくないものだな。自分自身の若さ故の過ちというものを) とか言いながら? (笑)

GM : そんな感じでソフィー奪還に決意を固めつつ、ちょっとコソットしたものに心を奪われているというところでシーンを切らせていただきます。

ライゼル : 急がないと、コソットしたものが帝国に出回るよー。



アルシャードリプレイ ブライトナイト4

<http://p.booklog.jp/book/51963>

著者：沢渡祥子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/swtr/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/51963>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/51963>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ